本校の沿革（前編）

明治六年より
昭和十六年まで

同窓会長　加藤嘉雄

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト倶ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

五箇条御誓文

慶応四年三月十四日

一、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ

一、上下心ヲ一ニシ盛ニ経綸ヲ行フヘシ

一、官武一途庶民ニ至ル迄各々其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス

一、旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我国未曽有ノ変革ヲ為サントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯ノ国是ヲ定メ万民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

学校名

明治六年二月十五日　不惕学校として創立

明治十六年五月八日　時習小学校と改称

明治二十五年十二月二十七日　前渡尋常小学校と改称

明治三十年五月八日　前宮村立前宮尋常小学校と改称

明治四十三年四月一日　前宮村立前宮尋常高等小学校と改称

昭和十六年四月一日　前宮村立前宮国民学校と改称

昭和二十二年四月一日　前宮村立前宮小学校と改称

昭和三十年二月十一日　稲羽町立前宮小学校と改称

昭和三十八年四月一日　各務原市立稲羽東小学校と改称

本校の創立

本校は明治六年二月十五日、前渡西町の桃春院を仮校舎として、不惕（ふてき）学校と命名して開校せられました。

本校沿革誌第一号に、次のように記録されているので原文のままを写します。

明治六年

抑本校ハ明治六年以前ハ羽栗郡下中屋村敬恪小学校

ノ校下ナリシガ、本村ヨリハ一里以上の道程ニシテ、児童ハ日々通学ノ便ヲ欠キ、出校スルモノ随テ寡シ。是ニヨリテ父兄ハ同校ト全ク分離シ独立センコトヲ企望シ、時ノ学区取締嶽田弾之丞ニ計リ、官庁ノ許可ヲ経テ、更ニ前渡村桃春院ヲ以テ仮ニ校舎ニ充テ便宜上下切村・山脇村・野村及ビ羽栗郡松本村ヲ合併シ公立不惕学校ト名称セリ。時ニ明治六年二月十五日ナリ。

当時教手ハ、高崎諒三・野々山正山・武山恵淳・永井弘衛・長瀬寛二ニシテ、出席生徒ハ日々四十名内外ニ過ギズ。

学事当局者中学区取締ナルアリテ時々巡回シ以テ奨励セリ。学年ハ当初ナカリシガ漸次布達或ハ規則ノ出スルアリテ遂ニ学年試験ヲ要スルニ至レリ。

経費年額ハ今ヨリ詳カナラズト雖モ、当時其職ニアリシ人ノ傳フルニハ、凡二百七八十円ヅツハ年々之ヲ要セシ由ニテ、此ノ費額ノ財源ハ有志元資金八百十一円五十銭ヲ各村ニ割リ当テ、即チ前渡村金五百八十一円五十銭、下切村金八十円、山脇村金七十五円、野村金二十五円、松本村金五十円ニシテ、之レヲ各戸資力ノ等級ニ応ジ積立資金ヨリ学校費ト称シ利子金トシ出セシナリ。

〔註〕

㈠羽栗郡下中屋村は後の羽島郡中屋村下中屋

㈡校名の不惕（ふてき）は

易経という漢書の中に

「君子終日乾々夕不惕」という語句があるので

これが出所であると思われます。

「おそれず」の意味であります。

㈢高崎諒三先生　高崎敏臣氏の四代前

野々山正山先生　後継者不明

武山恵淳先生　常貞寺武山秀道氏の四代前の住職

永井弘衛先生　医永井良一氏の三代前

長瀬寛二先生　長瀬春実氏の三代前

明治七年

桃春院で「読み書きそろばん」の教育をしていたが、児童は増加しない。八月に村上吉三郎先生と苅谷喜市先生を招いて七人が日々交代で授業を受持たれたようだ。村上苅谷両先生は二三か月で退職せられ、長瀬先生も辞職されている。

学区取締は朝田純一先生と篠田先作先生で時々巡回されて奨学されるが頗る緩漫であった。

明治八年

この年三月始めて師範学校派出教員横山栄作先生を迎えた。この時最初の先生全部辞職されている。児童は、ちょっと増加して五十名を超えた。

十二月に初めて定期試験を行った。

学校経費は前年に比して大差なし。

明治九年

助手二名を傭うと記されているが氏名がわからない。

明治十年

二月横山栄作先生を解傭。

三月久保田耕作先生を招いたが七月に解傭。

当時の学制は下等八級から上等一級まで満八か年を以って小学校卒業となっているが、規定は規定で下等四年を卒業する者すら何人という甚だ少数であった。

九月に飯田潔先生を迎え助手も四名にして交代で勤務せられていた。

明治十一年

四月協議の上、各務郡鵜沼村三ッ池組を当校の校下に編入した。

四月河合敬司先生を迎えた。昨年迎えた四名の助手は相ついで辞任せられ、助教として堤信太郎先生を迎えたが数か月で辞職せられた。十二月に河合先生も辞職せられ、教員がなしになってしまったので臨時代理として森栄五郎先生に来てもらった。こんな風で先生の交代が頻々とあり欠員という時も生ずるので、本校の衰微をきたし、児童の出席するものも三十名を下るということにな

ってしまった。
明治九年から同十一年に至る三か年の経費は通じて六百円内外である。

明治十二年
二月小島竹治郎先生に来てもらい同時に村上元之丞先生外一名を助手として迎えた。
三月郡内三柿野村字三滝組を本校校下に偏入する。
当時の学区取締は柳原五平氏であった。
本年の経費は金弐百弐拾壱円である。

明治十三年
特記事項なし。
経費前年に同じ。

明治十四年
教育令改正と共に漸く学事再興の緒につくといった調子で出席する児童が七十名に達した。

明治十五年
一月助手に鈴木新治郎先生を迎えた。
当時学区取締は廃止せられて、官の勧奨が頗る厳になって来た。これに呼応して校下の父兄も子供の教育を忽にしてはいけないということを自覚するものがだんだん多くなって、日々百名内外の児童が学校へ来るようになった。そこで桃春院の仮校舎では狭いということになり協議に協議を重ねて、校舎新築にふみきることができ、十一月に地形搗を始めた。

明治十六年
校名を時習小学校と改める。
「出所」
論語の「学而時習之不亦説乎」
まなんでときにこれをならう、またよろこばしからずや。
三月村の中央にあたる矢熊山の西麓に校舎を新築した。
その時の記事は次のようである。

明治十五年五月校下各村戸長の連署を以って本校新築の挙を官庁に申請し慈に許可を得たのである。十一月から工事に着手し校下全域から人夫が出て働いた。翌十六年五月八日校舎新築落成したので同日開校の儀式を行う。校名を時習小学校と改称し、長さ九間奥行四間半の校舎である。時の先生は小島竹治郎・鈴木新治郎・村上元之丞の三氏で幹事は坪内昌寿氏である。本日の儀式に参列の方々は、郡長駒田正忠氏・小川亮氏・朝田統一氏と隣校の先生七名であった。
明治十五・十六年の経費は同額で各二百拾八円五十銭である。
校舎新築費は金参百弐拾四円である。

明治十七年
四月村上吉三郎先生を迎える。
七月小島竹治郎先生辞職せられる。
新校舎ができ就学熱が高まり、毎日百三十名以上の児童が通学するようになった。本校創立以来の盛大さである。
八月鈴木新治郎先生が辞職せられたので先生が足らなくなった。そこで永井釜太郎氏・永井鍋太郎氏・苅谷岩治郎氏・赤座松太郎氏を順次助教として奉職してもらった。
本年の経費は二十六学区内共通の予算額ということになり、本校の賦課当りは金参百円、この金額で維持した。

明治十八年
本年の歳費額予算は金参百弐拾円である。
十二月十六日本校に小学高等全科卒業生七名を出した。これは本校創立以来（十三年目）未曽有の盛大である。

明治十九年
五月勅令第十四号を以って教育令の改正があり、八月一日から実施することになった。
今回の教育令は従来の初等科高等科を廃して、高等・尋常・簡易の三科とし授業料を徴収する。（但し簡易科はこの限りにあらず。）

授業料は学齢児童の資産に応じて区別し、尋常簡易に分けて入学せしめたために世人は教育の本旨を知らず、簡易科を呼んで貧民学校と呼びだした。この教育会の改正が改悪にうけとられて学校へ行かない、学事放棄とまではゆかなくとも学童の出席が甚だしく低下したのはおしいことである。従って経費も節減し学区間共通予算が立てられたのが廃止になり校下適宜ということになってしまった。本校もその難に逢い本年度の経常費を金百拾円に減ぜられてしまった。

こんなことで助手二名を減ずる。

五月には村上吉三郎先生（後文雄と改名）が敬恪小学校へ転任になり九月には苅谷岩治郎先生と赤座松太郎先生がおやめになる。

出席生徒は日々平均百名を下る。

明治二十年

三月村上元之丞先生訓導となり本校の主座となられる。

五月永井釜太郎先生辞職、赤座鶴治郎先生就任。

本年末調査による出席児童総数は百弐拾八名である。

本年の経費金壱百拾五円六拾四銭也。

明治二十一年

一月永井鍋太郎先生辞せらる。翌月宮本卯三郎先生就任。十二月宮本先生が辞せられたので長瀬啓太郎先生就任。

年末の児童数百十一名。

本年の経費金壱百弐拾八円弐拾銭也。

明治二十二年

四月町村制施行に伴い校下の下切村と山脇村は合併して若宮と改称した。この時松本村は中屋村に含有されたので敬恪校下となり、本校の校下から分離した。

八月長瀬啓太郎先生辞任。坪内昌寿先生就任。

九月三日夜本校に盗賊忍び入り、書楷三十七部と時計一個を盗難にあう。

出席児童数百四十四名。

本年の経費金壱百弐拾壱円六拾九銭也。

明治二十三年

四月坪内昌寿先生辞任。永井正夫先生（釜太郎の改名）着任。

四月二十九日昨年盗難に罹った書楷三十一部その筋から下附せられた。

十月勅令第二百十五号を以って教育令が改正せらる。

十月三十日教育に関する勅語が下賜せられた。

本年の出席児童年末調査によると百四十人である。

経費は金八拾八円七拾七銭外に金弐拾七円参拾銭の補助金があった。

明治二十四年

一月四日教育に関する勅語謄本を奉戴する。

四月七日永井鍋太郎先生就任。同月三十日永井正夫先生辞任。五月二日赤座松太郎先生就任。

勅令第二百十五号小学校令第十九条に基き設備準則が発布せられた。

文部省令第四号を以って小学校祝日大祭日の儀式規程を定められた。

六月三十日勅令第七十三号を以って市町村小学校長及び教員名称並びに待遇法が公布せられた。

八月三十一日岐阜県令第五十号を以って法律第八十九号地方学事通則及び勅令第二百十五号小学校令中の条項を本年十月一日から実施するとの布達があった。

濃尾大地震

十月二十八日早朝突如として大地震が起った。校舎全潰の難を免がれ得ず、幸にも児童は登校していなかったので人難は更に無かった。書楷を始め器械や教材用具までおしつぶされただけでなく風雨の為にも汚損せられて十分の一も使いものになるものはなかった。

授業はやりたいが場所がない。校舎借り上げにするか小屋掛けにするかを数回協議したが、中々まとまらない。幾多の日数を経過し漸く小屋掛けの決議が成立した。それは民家も多数倒潰して借りる家もないからでもある。早々にして簡単な小屋を築いて授業にかかったが十分ではない。

十一月赤座鶴治郎先生と永井鍋太郎先生が辞せられた。

十二月鵜沼村三ツ池組を校下からはずすことになった。

というのは学校まで三十町を超す道程があり、それだけでなく各務原を横切って通学する道路が砲兵隊の演習場にかかるというので危険が伴うというのである。

名古屋鎮台の砲兵隊は定期演習に各務原を演習場にしていた。三ツ池南部の各務原東端から西の方向約一里の三井山に向って実弾射撃の演習を行ったという。

こんなことで三ツ池は学校を新築するからといって当校の委托を解除してほしいと願い出たとのことである。

明治二十五年

一月十五日震災後の仮校舎小屋掛が漸く成功したので本格的の授業を始めたが、書籍も器材も不十分で只命脈を保つに過ぎなかった。

本年の経費は金壱百拾参円弐拾銭と定められた。

三月訓導村上元之丞先生は学校の備品費にと金拾円を寄附せられた。

四月一日から勅令第二百十五号の教育令を全県下一斉に実施ということになった。

四月二日丹羽弥太郎先生を授業生として任用、三か月で辞任。

四月二十二日丹羽栄治郎先生を授業生として任用。

七月二十日授業生赤座松太郎先生辞任。後任として永井直衛先生を任用。

同月三十一日夜盗賊忍び入り、筆墨紙等若干と先生の袴を持ち去った。

八月一日丹羽民之丞先生を授業生として任用。

十月十六日授業生永井直衛先生辞任。後任に赤座主計先生を任用。

十一月三十日授業生丹羽栄治郎先生と丹羽民之丞先生辞任。

十二月二十七日　今上天皇陛下皇后陛下の御真影を奉戴する。ところが校舎は小屋掛で安置所がなく、組合役場内に奉安し奉る。

明治二十六年

校名を前渡尋常小学校と改称する

（郡長の論示に依る）

五月十九日校舎新築の基礎工事（その頃は地形搗（ぢ

ぎょうつき）といった）に着手し三十一日建築を始めた。

（建前（たてまい）（棟上（むねあげ））

七月始新築落成したので、仮校舎の小屋から新校舎に移って授業を始めた。

十月十六日校舎の落成式をあげ、両陛下の御真影奉戴式も兼ねて挙行、参列者多数で頗る盛大であった。

十月二十日永井直衛先生を任用

明治二十七年

本年度の教育費を金弐百五拾六円参拾八銭と定められる。

六月十六日訓導下村卓彦先生着任。先生は高知県土佐郡江口村百軒町の出身である。

同月二十日永井直衛先生辞任。

明治二十八年

一月二十三日訓導下村卓彦先生転任。

二月二十二日永井直衛先生を任用。

六月六日訓導村上元之丞先生本郡各務尋常小学校へ転任。

六月十日本郡古市場尋常高等小学校訓導竹山寿夫先生来任せらる。先生は明治二十二年十二月岐阜県尋常師範学校を卒業せられた。

本年の学務委員は足立清五郎氏。

教育費金弐百六拾五円八拾八銭也。

明治二十九年

四月二日修業年限三か年の補習科設置を稟申し五月三十日に認可があった。

四月十五日永井直衛先生が辞任されたので田中利栄先生を任用した。

四月から三柿野村三龍組と野村組とを分離して委托を解除したので両組は古市場の学校へ通うことになった。

五月八日赤座主計先生は准訓導に栄進せられ、本校の職員に任ぜらる。

本年の学務委員は仙石藤七・五島市兵衛・丹羽久治郎の三氏である。

教育費は金弐百八拾八円九拾銭である。

明治三十年

校名を前宮尋常小学校と改称する

（前渡村と若宮村とが合併して前宮村となったから）

四月十一日准訓導赤座主計先生は本県尋常師範学校乙種講習科に入学するために退職せられたので臨時代理として赤座角之助先生を迎えた。

四月より学級数を二学級に定められた。

五月三日本郡大宮尋常小学校准訓導佐藤惣次郎先生着任。

五月八日校名を前宮尋常小学校と改めた。これは前渡村と若宮村が町村制によって合併し前宮村となったからである。あれこれしていたので昨年出した補習科設置の問題が立ち消えになってしまった。

校下に於て村治上の円満を欠き学務委員の選出もできずに終った。

本年の教育費金弐百九拾四円九拾七銭也。

明治三十一年

四月十六日苅谷栄三郎先生着任。

六月十一日訓導竹山寿夫先生辞職後任として吉田章先生就任。

十二月二十三日訓導吉田章先生鵜沼尋常高等小学校へ転任。

本年の教育費金弐百九拾五円拾七銭である。

明治三十二年

一月一日村上吉三郎先生着任されたが十月五日丙種講習科へ入学せられて退職。

四月七日苅谷栄三郎先生辞任。

四月八日村上元之丞先生就任。

四月十四日永井信二先生就任。

五月一日より三十三年四月三十日まで准訓導佐藤惣次郎先生は正教員代任となる。

八月臨時村会を開いて修繕費金四拾参円を議決せられ各所の修繕を施した。

本年度の教育費金参百五拾七円五拾五銭。

明治三十三年

一月十三日村上元之丞先生校長兼任となられた。

四月一日村上吉三郎先生准教員として就任。

四月十一日補習科設置を稟申し七月二十三日認可になった。

二月十四日付で高崎春太郎氏を校医に嘱託せられた。

六月十六日永井信二先生退職。

八月十八日勅令第三四四号を以って改正小学校令を発布せらる。

八月二十一日文部省令第一四号を以って小学校令施行規則を発布せらる。

十一月二十九日加納秀子先生を迎える。

本年度の教育費金五百六拾八円九拾七銭である。

明治三十四年

一月十九日加納秀子先生退職。

四月一日井上祐三郎先生就任。

七月二十七日校長村上元之丞先生依願退職。

十月十一日准訓導永井信二先生再び就任。

十月十九日訓導兼校長として西尾陶次先生着任。

十二月二十七日井上祐三郎先生着任。

本年度教育費金六百九拾壱円四拾九銭五厘也。

明治三十五年

一月三十日より一か年間佐藤惣次郎先生、岐阜県師範学校甲種講習科へ入学。

四月一日新教科書を用う。

四月二日井上祐三郎先生依願退職。

四月四日丹羽弥曽市先生を迎う。

六月七日高島みさ先生を迎う。

七月一日岐阜県指令第九〇七号を以って、前宮実業補習学校を認可せられた。

九月十七日裁縫科加設を認可せらる。

九月二十日前宮実業補習学校学則変更が認可せらる。

九月二十五日高島みさ先生芥見小学校へ転任。

九月三十日清水たい先生赴任。

十一月十三日本校校長兼任の西尾陶次先生山県郡掛小学校へ転任。

十一月二十九日村上吉三郎先生現役兵として第九師団騎兵第九聯隊へ入隊につき退職。
十二月九日村上元之丞先生就任。
本年度教育費金七百六拾九円八拾九銭也。

明治三十六年

一月十三日永井信二先生萩原小学校へ転任。
五月一日井上祐三郎先生退職。
五月七日丹羽義久先生着任。
九月二十三日佐藤惣次郎先生芥見小学校へ転任。
十月一日訓導兼校長として林清吾先生着任。
十一月六日実業補習学校へ郡費金参拾円補助せらる。
本年度教育費金五百九拾四円六拾六銭五厘也。

明治三十七年

三月三十一日清水為爪先生師範学校乙種講習科へ入学のため退職。
四月一日國枝さく子先生赴任。
六月一日より校長林清吾先生は六週間現役兵として、歩兵第十九連隊に入隊。
七月十四日林校長は鏡島小学校長に転任。
七月十四日村上元之丞先生校長兼任を命ぜらる。
七月二十一日坂井英一先生蘇原小学校から本校へ転任。
七月三十日丹羽弥曽市丹羽義久両先生退職。
八月一日の臨時村会に三十七年度の教育費中訓導の俸給を金七拾八円増支出を議決せられた。
九月二十七日村上校長は附設補習学校長に兼任。
本年度の教育費金四百九拾四円八拾参銭五厘也。

明治三十八年

一月五日農業補習学校として学則改正の申請をなす。
一月二十九日国枝さく先生退職。
二月一日伊東きの先生着任。
三月二十三日本年度の小学校費金五百円四拾弐銭五厘と村会の決議。農業補習学校費としての金百参拾円八拾五銭は廃止せられた。
三月二十三日坂井英一先生蘇原尋常高等小学校へ転任。
三月二十八日丹羽義久先生再び就任。

四月十一日村長五島久太郎氏辞任。丹羽久夫氏当選。学務委員に五島久太郎・村上文雄・日比野濱太郎の三氏選任。
七月二十一日附設農業補習学校費として金拾弐円の追加予算が可決せられた。
七月二十四日清水たい先生講習を卒って就任。
七月三十一日伊東きの先生、丹羽義久先生退職。

明治三十九年

三月二十七日本年度の教育費金五百八拾弐円九拾六銭五厘。農業補習学校費金七拾六円と議決せらる。
学務委員前年通り。

明治四十年

三月十六日の村議会で教育費が議決せられた。
小学校費　金六百五拾四円八拾四銭五厘也。
補習学校費　金拾六円也。
三月二十一日学務委員決定。永井正夫・五島久太郎・日比野浜太郎の三氏当選。
村長永井直衛氏　（前年度の通り）　然し四月辞任せられ欠員のままであったが九月九日丹羽外次郎氏当選。
五月二日松江操子先生着任。
十一月六日村上元之丞先生は岐阜師範学校第二回臨時講習会に出講の不在間村上忠左ヱ門先生就任。

明治四十一年

一月二十三日村上元之丞先生講習を終って帰校。従って村上忠左ヱ門先生退職。
三月二十一日本年度の教育費
経常費　金一、一六六円三五銭
臨時費　金一、二〇〇円
かように増加したのは小学校令の改正によって第五学年が増設されることになったからである。
三月三十一日村上元之丞先生の校長兼任を免じ、永井牛太郎先生訓導兼校長に任ぜられ着任。
四月より改正小学校令によって第五学年を置く。
三月三十一日二宮友蔵先生訓導に任ぜられ赴任。
四月七日村上忠左ヱ門先生就任。

学務委員は五島久太郎・丹羽久夫・日比野浜太郎の三氏であったが校長永井牛太郎先生を増員し四名となる。
四月から訓練方針を刷新し校訓を制定せられた。
（校訓を思い出したので記載します）

よ　くつとめ　よくあそべ
き　りつただしくせよ
こ　とばつかいをていねいにせよ
ど　のようなことにもしんぼうせよ
も　のごとにいつわりをいうな

校地の拡張と校舎新築
敷地　一反十九歩　代二五〇円
校舎　着手　十二月一日
　　竣工　翌年三月三十一日
　　本校　八四〇円　造作を除き木材代及び大工手間代
　　その他　三九五円
　　便所　一五〇円

諸費　一五〇円　雑費　九五円
総計　一、六三〇円

明治四十二年
第六学年を新設し二十二名進学する。
第一学年へは五十八名入学する。
四月十日村上忠左ヱ門先生師範学校乙種講習科に入学。
丹羽久克先生・五島理一先生・足立尚先生新任として着任。
管理者村長丹羽外次郎氏辞任。永井直衛氏就任。
学務委員日比野浜太郎・田中常之丞・丹羽久夫・永井牛太郎の四氏
本年度教育費
小学校　一、三三六円四〇五
補習学校　一五円〇〇〇
九月十六日　北長森村野一色に歩兵第六十八聯隊新設皇太子殿下行啓遊ばさる。本校児童百拾名奉送迎のため北長森に到る。

明治四十三年
本年度の教育費　一、九八五円八四銭
学務委員　丹羽外次郎・足立梅吉・仙石憲治の三氏。
本校に高等科を併置することを認可せられ、永井牛太郎訓導は兼任校長に任ぜらる。
管理者村長永井直衛氏辞任、村上文雄氏就任。
二階建旧校舎の改築が議決せられた。

明治四十四年
本年度教育経常費　一、六五六円
学務委員　足立正幹・永井正夫・苅谷菊治郎の三氏。
四月十五日清水たい先生中有知小学校へ転任。
四月十八日古田鈴子先生着任。
八月十五日矢熊山西麓の竹林を切り開いて旧校舎の移転をはじめ、九月一日に竣工す。
この校舎は六教室あるが、役場が二教室分使用して、学校は四教室を使っていた。
十月十六日　各務原で騎兵特別大演習があり皇太子嘉仁親王殿下が騎馬で御統管になり、尾崎山御野立所に行啓遊ばされたので本校全職員児童は荒井山西端において奉迎送をする。
この尾崎山はその後御成山と改称することになった。
この演習で始めて機関銃を使用された。
十一月二十八日古田鈴子先生依願退職により、丹羽勝先生を迎えた。
十一月三十日裁縫科担当に光田かの先生赴任。
三月三十一日足立尚先生依願退職。
三月二十五日より新築校舎の基礎工事に着手。

明治四十五年
本年度教育経常費　一、六五二円
四月一日永田新兵衛先生本校訓導として着任。
四月十日馬淵てる先生着任。
四月十二日丹羽勝先生依願退職。
七月二十九日　天皇陛下御大患につき、職員児童全員村内各神社を巡拝して御平癒を祈り奉る。

大正改元

七月三十日午前〇時四十三分　天皇陛下御崩御あらせられ、今上天皇御践祚遊ばさる。

八月十七日光田かの先生依願退職。

八月三十一日新築校舎竣工する。

間口十二間　奥行五間　二階建　建坪六十坪

工費総額　四、二三九円

土地費　五三〇円

建築費　三、六〇〇円

諸　費　一〇九円

九月十三日　明治天皇御大葬日につき校庭において、遙拝式を厳修する。

九月二十四日未曽有の大暴風雨で中部校舎（平家二教室）北へひどく傾斜し半潰となる。早速修理にとりかかって十月十日に完成し授業を始めた。

十二月二十七日馬淵てる先生依願退職。後任として江崎みつ先生着任。

本年度の新年拝賀式及び紀元節の儀式は諒闇中で取りやめになった。

大正二年度

改元をさかいに、先生の異動は省略します。

大きい行事だけを記載します。

本年度の教育経常費　一、六五六円也

七月三十日校庭に祭担を設けて、明治天皇御一周年祭を挙行して御遺徳を偲び奉る。

十一月十一日　本県知事島田剛太郎氏・本校を巡視せられた。

大正三年度

本年度教育経常費　一、六四〇円也

四月十一日　皇太后宮崩御あらせらる。

五月二十四日　昭憲皇太后御大葬儀

大正四年度

本年度教育経常費　一、六五六円也

十月二十七日、天皇陛下の御真影を奉戴す。この日、学校長永井牛太郎先生と村長村上文雄氏は、郡役所に出頭、郡長から伝授せられた。

十一月十日、京都紫宸殿において、天皇陛下御即位の大典をおあげになったので学校も祝賀式を挙行した。

大正五年度

本年度教育経常費　一、六一五円也

八月八日より二週間名古屋騎兵第三連隊が木曽川で水馬演習を行なうので、校舎を開放して兵の宿舎に充用、連隊本部、経理部、医務室等の宿舎は寺院や格式ある民家に充てられた。

十月二十七日、皇后陛下の御真影を下賜せられ、奉戴式を挙行した。

十一月三日、立太子礼奉祝の儀式を挙行した。

大正六年度

本年度教育経常費　一、七三九円也

八月十日より二週間騎兵第三連隊水馬演習に来村、前年同様校舎を兵の宿舎に開放する。

大正七年度

本年度教育経常費　一、九五六円也

本年度より義務教育費が国庫負担法によって改正せられ、予算額が二、二四三円也となった。

八月四日より八日間騎兵第三連隊の水馬演習で校舎を兵の宿舎に開放すること前年の通り。

八月二十五日午后五時動員下令。応召者の壮行式を二十七日と二十八日に校庭において実施し村境まで見送る。応召者二十四名の多数に及ぶ。シベリヤ出兵。

三月三日、朝鮮の故李太王殿下御葬儀の当日で哀悼の意を表し休業。

大正八年度

本年度教育費経常費　二、三七八円也。

四月一日、学校長永井牛太郎先生依願退職。

永田新兵衛先生学校長に就任。

五月七日、皇太子殿下御成年奉祝式を挙げた。

上級生の家庭手伝

五月二十二日より一週間半日授業にして養蚕手伝。

六月二十三日苗代田の螟虫採卵。

七月一日、欧洲大戦乱講和条約成立し祝賀式。
七月六日、シベリヤに出征中の応召者二十三名に対し村より感謝状を贈呈。
十月二十八日、高木学校衛生主事来校。

大正九年度

本年度教育経常費　三、〇五一円也
同　臨時費　八四〇円也
六月一日、学校内に学用品購買部を設ける。
六月二十六日、国勢調査の宣伝を行なう。
七月二十一日、岐阜高等小学校で野球試合。本校高等科と北長森小学校の高等科と試合をなし、本校の勝利に帰す。
八月四日より一週間騎兵第三連隊の水馬演習。前年の通り全校舎を開放する。
十月一日、午前〇時国勢調査
十一月一日、高山線が岐阜駅から那加駅まで開通したので岐阜市方面へが楽になった。
三月三日。東宮殿下御渡欧の首途を遙拝して祝う。

文部省検定唱歌
（中村甕子さんの記憶から）

我が大君の高光る
日嗣御子（ひつぎのみこ）はかしこくも
西欧洲をみまさんと
遠き旅路に立ち給う
大正十年三月の
桃の節句のその朝（あした）
高輪（たかなわ）御所をいでまして
横浜港に着かせらる
海には香取のお召し艦
供奉（ぐぶ）の鹿島ももろともに
雄々しき姿横たえて
栄ある今日を待ちまつる
やがて打ち出す砲音（つつおと）に
帆柱高くひるがえる
皇太子旗は折からの
朝日に清くかがやけり
（以下略す）

大正十年度

本本年度教育費経常費　五、一一九円也
六月三十日、暴風雨があって校舎がひどく破損した。
九月三日、御訪欧中の皇太子殿下、無事ご帰朝につき祝賀の旗行列をして村内各神社を巡拝した。
九月二十六日、大暴風雨があって、修理したばかりの校舎が又傾斜した。村内には倒潰家屋が多数あった。
二月十九日、二十日、高等科児童を伊勢参宮させた。一泊の修学旅行はこれが嚆矢である。
三月二十四日、管理者村長村上文雄氏辞任。田中常吉氏就任。学務委員に仙石藤治郎、丹羽弥太郎、足立正幹の三氏就任。

大正十一年度

本年度教育費経常費　五、五二四円也
四月二十八日、英国皇儲殿下が岐阜市へお成りになったので、職員と上級生は岐阜市へ出て奉送迎をする。
八月二十九日、（旧暦七月七日）七夕祭を校庭で行なう。
十月三十日、学制頒布五十年の記念式典を挙げ、記念図書館を校内に設けた。創設費金二〇〇円
十月三十一日、天長節祝日の式後全村的大運動会を行なう。
優勝旗の授与。
鮮潮団の鮮潮速報新聞の発行。
青年団、処女会、在郷軍人会の競技参加。
十二月三日、処女日曜学校開設。学校長の召集で二十名集合、村長田中常吉氏。桃春院住職光田穆堂和尚、医師高崎春太郎氏の内室敏子さん等が参列された。
三月三十一日、開校直後から教壇をとられた村上元之丞先生は病気のため依願退職せられた。

大正十二年度

本年度教育費予算高　五、五八三円也
四月十三日、歩兵第六十八聯隊と交渉して、機関銃と歩兵砲を加えた不動山攻撃の演習を行ってもらい、上級生男子（ジャンボリー少年団）の参加を許してもらった。この変った行事は田中利工三郎氏と加藤嘉雄氏の骨折りによる。

四月二十五日。村上元之丞先生の謝恩会を卒業生が学校で行った。

五月二十二日から一週間養蚕農繁期として午前授業とし、家庭の手伝をさせる。

六月二十二日、木曽川非常増水で矢熊山東麓一帯水入り、東部の児童帰宅できず、水引きを待って、男子職員は児童を背負って渡してやった。

七月十八日、又木曽川非常増水で東区通学道路浸水、前回同様児童を背負って渡す。

八月六日より十日間騎兵第三連隊のため校舎を宿泊に供す。

八月十八日夜、前年通り七夕祭を校庭で展開する。

九月一日、関東大震災。

八日、慰問袋三五〇個を発送。

二十日、罹災児童に学用品費を送る。

十月十七日、罹災死亡者の追悼慰霊祭を行なう。

十一月十日、国民精神作興に関する詔書換発せらる。

十一月二十二日、二十三日、本校創立五十年記念展覧会を開く。

第一館　教育館
第二館　成績品館甲（自校）
第三館　同　　乙（他校）
第四館　郷土館

第一日の行事　遊戯会　婦人講演会
第二日の行事　雄弁会　武術会

十二月七日、本県師範学校長雨宮新七先生の視察。

一月十八日　東宮殿下御成婚記念事業費として児童の寄附金三三円六〇銭と職員寄附を合して、新聞掲示板一基と七宝焼花瓶一個を学校に寄附する。

一月二十六日、摂政宮殿下御慶事奉祝式をあげ全児童と処女会は旗行列で村内神社寺院を巡拝、夜は青年団の提灯行列をなす。

二月二十二日、二十三日、小学校六年と高等科全員で百三名、桃山御陵参拝と京都名勝見学の修学旅行を行なう。

三月十日、在郷軍人会の行なう忠魂碑前の招魂祭に全校参列する。

大正十三年度

本年度教育費予算高　六、五八五円也

四月一日、高等科併設以来少人員のため、復式学級としていたが本年度入学の一年四七名、二年二九名となったので学級を別に編制した。

四月二十六日、学校長永田新兵衛先生は可児郡視学に転任。横山鳳潤先生が学校長に就任。

大正十四年度

本年度教育費予算高　六、四七八円也

本年度始めの児童数　尋常科　三九一名
　　高等科　八四名
　　計　四七五名

学校拡張工事

議決　七月二十一日

第一工事　1、十一月六日敷地購入の交渉成立

購入地積七四七坪

購入価格四、〇一七円九七銭

（田中陣作氏方一部移転料を含む）

2、購入地埋立

請負者　安藤辰五郎氏

右費　三四〇円也

（十一月二十六日着工
十二月二十九日完成）

第二工事　1、移転校舎基礎工事

請負者　安藤辰五郎氏

工費　九五〇円也

2、旧校舎二棟移転

請負者　北長森村
　　中島粂次郎氏

工費　六五〇円也

（一月八日着工
二月六日完成）

第三工事　御影奉安所付四教室一棟新築

設計者　岐阜市江川町
　　山田金一郎氏

設計費　五〇円也

請負者　岐阜市材木町
西村　久六氏
請負金額　八、三七八円也
竣　工　大正十五年四月五日
右三工事予算高　一五、五九八円也

大正十五年度

四月二十七日、学校拡張工事、附属建物工事全部完成したので落成式を挙行。

来賓　本県知事（代理）　郡長大野　勇氏
郡視学奥村兵十郎氏　郡選出県会議員
警察署長（代理）　隣接村長　外
建築委員　仙石憲治氏　足立竹松氏　丹羽芳太郎氏
小野木元十郎氏　日比野鉄次郎氏
菊谷菊太郎氏　田中　清吉氏　村上栄一氏
工事決算高　一七、八三七円九四銭也
管理者村長　田中常吉氏　三月二十四日任期満了
丹羽弥太郎氏（助役）四月二十日就任
本年度教育費予算高　六、四八四円也

児童数	尋常科	三九四名
	高等科	六九名
	計	四六三名

十二月二十五日、天皇陛下崩御遊ばさる。昭和と改元。

昭和二年度

本年度経常費予算高　六、八二二円也

児童数	尋常科	三九四名
	高等科	七四名
	計	四六八名

昭和三年度

本年度経常費予算高　七、五五三円也

児童数	尋常科	四一一名
	高等科	六一名
	計	四七二名

五月より御大礼記念事業として少年団と共同経営の農業実習地を約一反歩堤内に設け、開墾して畑作物の各種

を栽培する。

昭和四年度

本年度経常費予算高　七、九三九円也

児童数	尋常科	三九五名
	高等科	八一名
	計	四七六名

昭和五年度

本年度経常費予算高　八、一六六円也

児童数	尋常科	四一四名
	高等科	八一名
	計	四九五名

学級数増加　尋一、尋三、尋五を二学級に編成したので計十二学級となり、大正末期の大増築もはや狭ま苦しい状態になった。

八月三十一日、本村出身岐阜市美園町在住の丹羽弥七氏よりオルガン一台（附属品共）の寄附を受けた。

十月三十日、教育勅語御下賜四十週年の記念式典を挙行。

一月二十日、今上両陛下の御真影と御取替えになるので、大正両陛下の御真影を奉還し奉るため、奉還式を挙行。

一月二十九日、今上両陛下の御真影を奉戴し奉ったので奉戴式を挙行。

昭和六年度

本年度経常費予算高　七、六五四円也

児童数	尋常科	四二五名
	高等科	六六名
	計	四九一名

三月三十一日附学校長移動
訓導兼校長　横山鳳潤先生
更木小学校長に転出
訓導兼校長　加藤静雄先生
那加小学校より転入

六月十六日、飛行第二連隊の斉藤資良少尉殿飛行演習中墜落して殉職されたので上級生が代表して会葬する。

八月十日、四年以上の男女、少年団員として加茂郡古井町まで耐熱行軍を行う。本校職員の外各部落の少年団役員も同行。

十一月十三日、満蒙問題の講演会。講師栗田大尉殿、有賀那加校長殿。一般村民聴講。尋五以上も聴講させた。

十一月二十三日、連隊区司令官若宮大佐殿の時局講演会一般村民の外上級生も聴講。

一月四日。軍人勅諭御下賜五十周年記念式を在郷軍人会が主催した。金田少将閣下の講演を上級生も聴講する。

一月十三日、満洲派遣軍に児童の慰問袋一三五点を発送する。

二月七日、飛行第一連隊満洲方面へ出動。営門前で歓送する。

二月二十一日二十二日、尋六及高等科京都、桃山へ修学旅行。一〇五名参加。

二月二十六日、教育者に賜りたる勅語謄本下賜。

三月十二日、帝国教育会飛行機献納会及び呉海軍経理部（飛行機部）へ各金参円ずつ献金する。

今年度の寄附物件

一、ベビーオルガン一基　磯谷　貞一氏
一、野球用具一式　同　氏
一、號鐘　一個　小沢　宝一氏
一、ホームミシン一台　村上　静一氏

昭和七年度

本年度経常費予算高　七、七〇三円也
児童数　尋常科　四一八名
高等科　八四名
計　五〇二名

五月三日、飛行第二連隊に於て航空兵特務曹長新川実之殿殉職され連隊葬に高等科生徒会葬する。

五月二十七日、飛行第一連隊出動兵凱旋につき営門前に全校児童参列して歓迎する。

六月三十日、飛行第二連隊において殉職の航空兵少佐山本政治殿の連隊葬。高等科生徒会葬する。

七月四日、大洪水、長平北島方面に一部浸水家屋あり。学校の実習地も浸水し土砂流出で荒廃に帰す。

八月八日夜、校庭で七夕祭挙行。

八月十四日、飛行第一連隊において殉職の鈴木、石川両軍曹の告別式。代表者会葬。

一月一日、国旗掲揚塔の寄附あり。爾後毎日掲揚することにした。

一月二十三日、飛行第一連隊沓掛中尉殿の殉職によって連隊葬。高等科生徒会葬する。

本年度の寄附物件

一、ホームミシン　一台　高崎　敏子さん
一、大天幕　一張　安藤　信次氏
一、国旗掲揚設備　日比野新吾氏
丹賀沢正夫氏
安藤　慶一氏
一、児童用飯蒸器　大橋理三郎氏

昭和八年度

本年度経常費予算高　七、七五九円也
児童数　尋常科　四〇五名
高等科　八八名
計　四九三名

四月二十七日、靖国神社臨時大祭（臨時休業）満洲上海事変の犠牲者一、七一一名の合祀祭あり。

五月十日、尋五以上歩兵第六十八連隊の軍旗祭に参列し男子は少年団として分列式に参加する。

六月七日、飛行第一連隊殉職附柴鈔三曹長殿の告別式に高等科生徒会葬する。

八月七日夜、七夕祭。

八月八日、少年団事業として尋四以上一八八名、耐熱行軍犬山方面に往復徒歩。

八月二十四日、在郷軍人簡閲点呼を本校校庭と講堂で実施せられ、那加・更木・補給部・前宮の四分会集合。

九月四日、各務原補給部支部に於て陸軍航空兵特務曹長楠家重治殿殉職の告別式あり。尋六以上会葬す。

九月十七日、那加グランドにおいて、稲葉郡青年団陸上競技大会。本村青年団は陸上部・角力部・全般に優勝し大毎優勝旗を獲得する。

十月三十一日、下切安藤惣一氏方失火あり。在校児童があるので義損金十三円余を贈る。

十一月二十三日、本年青年団創立二十三周年記念式を

あげ、夜活動写真映写会を挙行する。
十二月十九日、飛行第一連隊満洲帰還（本村出身永井宗九郎氏もその一員）営門前に整列して歓迎する。
十二月二十三日、皇子孝宮明仁親王殿下御降誕遊ばさる。奉祝の旗行列を行なう。
二月十八日、（旧正月）同窓会の総会、今までお盆に実施していたのを旧正月に改めた。第二十一回の総会である。
飛行第一連隊浅井中尉殿殉職。高等科児童告別式に参列する。
二月二十四日二十五日、尋六以上一四二名伊勢参宮の修学旅行。
本年度の寄附物件
一、児童用雨傘五十本　遍照会殿
一、ホームミシン一台　五島市兵衛氏
一、日本満洲地形水盤　安藤信次氏

昭和九年度
本年度経常費予算高　七、八九九円也

児童数　尋常科　三八九名
高等科　八八名
計　四七七名
学校長異動（三月三十一日附）
訓導兼校長　加藤静雄先生
鵜小学校長に転出
訓導兼校長　平光弥重郎先生
鵜小学校長より転入
管理者異動
村長　丹羽弥太郎氏退任（四月十九日）
仙石藤治郎氏村長に就任（五月十五日）
四月二十九日、皇太子殿下御降誕記念国旗掲揚塔（鉄製）落成。
十一月三日、二宮尊徳翁銅像除幕
本年度寄附物件
一、点鐘　一個　五島篤一氏
一、国旗掲揚塔　本村在郷軍人分会
青年団
処女会

少年団
一、ラジオ受信機　本校職員一同
一、優勝旗　二旒　小沢宝一氏
一、二宮尊徳銅像　功七級古川兼吉氏
同　田中太蔵氏
同　足立五三郎氏
同　田中兵四郎氏
勲七等大橋理三郎氏

昭和十年度
本年度経常費予算高　八、五三一円也
児童数　尋常科　三八八名
高等科　八八名
計　四七六名
六月八日九日、尋六以上児童、京都奈良方面に修学旅行。
六月二十九日、飛行第二連隊殉職者桐山少佐殿、橋本大尉殿、中沢少尉殿、川口曹長殿の連隊葬に高等科児童参列する。
七月一日、従来の青年訓練所、補習学校は廃校となり前宮村農業青年学校の設立が認可せられた。
七月九日、本村農業青年学校開校式をあげ、九十六名が入学した。
十一月二十四日、青年学校の生徒中、陸上競技の選手滝実業学校創立十週年記念競技大会に出場して優勝す。
二月十一日、本校訓導加藤嘉雄先生は青年学校功労者として本県知事より表彰され、同時に実業教育研究会々長よりも感謝状を受く。
二月二十三日、本村公設消防組の発会式を本校庭において挙行
本年度寄附物件
一、幔幕　二張　田中清吉氏
足立文司氏
一、学芸会用幕　田中利工三郎氏
外三十一名

昭和十一年度
本年度経常費予算高　八、七二一円也

児童数　尋常科　三八一名
高等科　八七名
計　四六八名

七月二十七日、文部省より佐々木一義氏、県より坂金一氏来校され、御影の奉安状況を調査せらる。

一月二十八日、県視学三谷甚治郎先生学校の位置問題について来校、村長及び村会議員より事情聴取後候補地の実地視察調査せらる。

二月十八日、学校長は学校の移転増改築打合せのため、村会協議会に出席する。

本年度寄附物件
一、雨傘　五十本　遍照会殿
一、畜音器　一台　丹羽久克氏

昭和十二年度
本年度経常費予算高　九、三四九円也
児童数　尋常科　三七三名
高等科　九七名
計　四七〇名

六月十八日、学校移転増改築委員決定、移転校地の実測が行なわれ、学校長参加する。

七月七日、日支事変勃発。

七月十八日、松波久夫氏小沢梅王氏に動員下令。校庭に祭壇を設け応召者の武運長久を祈願し壮行式を挙げて門出を祝す。以下同じ待遇。

八月一日、長縄京一氏出陣。

八月十九日、日比野正衛氏外八名出陣。

八月二十二日、丹羽房美氏外一名出陣。

九月二十四日、加藤嘉雄氏外一名出陣。

十一月十八日、新学校敷地の地鎮祭。

十二月十四日、南京占領の奉告村社参拝。

十二月十七日、戦死の歩兵伍長丹羽登己氏の村葬。

一月三十一日、同窓会総会。

母校移転増改築記念として講堂の暗幕装置及び映写機寄附の件を可決す。

二月二十三日より、体操時や晴天の放課後を利用して全職員児童が校舎の基礎工事に使用する礫を川原から運ぶ労力を奉仕することにした。

二月二十八日、関東軍飛行第十二連隊満洲国公主嶺に入隊する皆川総平、磯谷貴則の両氏壮行式。

昭和十三年度
本年度経常費予算高　九、三六五円也
児童数　尋常科　三八六名
高等科　八五名
計　四七一名

校地の変更
昭和十二年十二月二十四日附岐阜県指令、十二学第三六六号により認可を受け、前渡字山屋敷に一町二段五畝二十一歩を買入れ校地とする。
（現校地は払下げる）

校舎の変更
昭和十二年十二月二十四日附岐阜県指令、十二学第三六号により、左記を移転し改築する。
一、講堂　木造平屋建
桁行七間　張間一三間余　九三、三坪
一、第一校舎　木造平屋建
桁行六間　張間四二間　二五二坪
一、第二校舎　木造平屋建
桁行五・五間　張間二一間　一一五、五坪
一、第三校舎　木造平屋建
桁行四・五間　張間一一間　四九、五坪
一、第四校舎　木造二階建
桁行五間　張間一二間　六〇坪
一、本館玄関　木造平屋建
桁行五間　張間八間　四六坪

四月三日、岐阜市公会堂において御親閲第五周年国民精神作興大会に全職員出席する。

五月二日、皇后陛下御名代閑院宮春仁親王妃直子殿下傷病兵慰問のため、各務原陸軍病院に御成りにつき、尋五以上同病院前に堵列し奉迎送申上げた。

五月十七日、元本校訓導加藤中尉殿十四日未明徐州戦大営集の戦斗において重傷の報に接す。

五月二十日、徐洲占領の公報あり、村内三村社に報告並びに武運長久祈願参拝をなす。

五月二十九日、第一号校舎（岐阜中学旧校舎及講堂）

の改築起工式を挙行する。
七月七日、飛行第二連隊の一部出動につき、同隊営門前に歓送する。
支那事変一周年の今日、戦没勇士の英霊に対し、御冥福を祈るため全員校庭に集合し黙禱を捧ぐ。
八月十一日、応召者村上栄之氏外一名の壮行式。
皇軍の武運長久祈願のため、村内各神社に巡拝す。
八月三十一日、応召者永井宗郎氏の壮行式。
九月四日、応召者大橋重雄氏外一名の壮行式。
九月十四日、青年団員総出動で、新運動場の地平均作業を実施。
九月十五日、丹羽勝衛氏外二名の壮行式。
九月二十二日、校舎の一部竣工したので、児童移転の祈念式をあげる。
十月四日、応召者五島伊久雄氏外一名の壮行式。
十月二十八日、武漢三鎮陥落。旗行列を以って村内神社を巡拝する。
一月六日、校舎第二、第三号工事完成。全校児童新校舎に移動する。

昭和十四年度
本年度経常費予算高　一一、一四五円也
児童数　尋常科　四〇三名
　　高等科　八八名
　　計　四九一名
学校長異動　（三月三十一日附）
訓導兼校長　平光弥重郎先生　（転出）
訓導兼校長　杉山真市先生　（転入）
四月二十五日、本村警防団発会式を校庭において挙行せらる。
五月六日、戦死者足立松太郎氏の村葬。
五月二十二日、移転増築が略完成したので、県からの校舎検査があった。
六月十五日十六日、高二児童は奈良京都方面へ修学旅行。
六月二十三日二十四日、尋六児童伊勢参宮旅行。
七月七日、支那事変二周年記念皇軍の武運長久祈願祭の式典に参列し、村内各神社を巡拝する。
八月七日、七夕祭を行ない学芸会を披露する。

九月十六日、講堂で前宮郵便局の開局祝賀式。
九月二十三日、全職員は岐阜護国神社建立工事の勤労奉仕に参加。
三月二十五日、村役場は学校の南西隅に新庁舎を建て事務を開始した。
本年度の寄附物件
国旗掲揚鉄塔移転
皇太子殿下御降誕記念として旧学校敷地に建設してあった掲揚塔を現校舎前に移転建立せらる。
雨傘五十本　遍照会殿

昭和十五年度
本年度経常費予算高　一一、七九二円也
児童数　尋常科　四〇四名
　　高等科　九五名
　　計　四九九名
四月二十九日、天長節拝賀式後、本校の校旗樹立式。
同窓会主催で丹羽久克先生に対する謝恩会並に記念品贈呈式をあげた。
五月五日、体育後援会の発会式を挙行。
五月十日、村役場および本校の移転改築落成式をあげ祝賀行事として、学童＝成績品展覧会、体育会。
青年団＝角力、剣道、銃剣術、撒餅、映写会。
六月六日・七日、高二児童京都奈良方面へ修学旅行。
六月十一日十二日、尋六児童伊勢参宮旅行。
七月七日、支那事変三周年記念式、国防婦人会の会旗樹立式。
八月八日夜、七夕祭、学芸会発表。
九月八日、高二男美濃町方面へ自転車行軍。
十月十六日、紀元二千六百年奉祝大運動会。
十月三十日、教育勅語煥発五十年記念式。
十一月二十八日、団栗（どんぐり）出荷。二回の計五四俵で六四八貫を児童の手によって集め供出する。後に県および全国山林会長から感謝状を受けた。
十二月十日、青年学校査閲。
十二月十五日、講堂において、本村在郷軍人分会主催出征軍人の遺家族慰安会並びに戦死者慰霊祭を挙行せらる。

一月八日、味噌汁給与を開始。
一月二十二日、戦死者日比野利勝氏の村葬。
二月十九日、戦死者磯谷寛氏、仙石一郎氏の村葬。
三月七日、青少年義勇軍参加者村上幸男氏の壮行会。
三月十日、忠魂碑前において在郷軍人分会の挙行される慰霊祭に全児童参加し、上級生は第一航空教育隊附の国松少尉殿の時局講演会に出席。

昭和十六年度
本年度経常費予算高　五、七九三円也
（教員給は県費支給となる）
児童数　初等科　四二〇名
高等科　九八名
計　五一八名
学校長異動　（三月三十一日附）
訓導兼校長　杉山真市先生
羽島郡敬恪国民学校へ転出
訓導兼校長　福田大哉先生　（転入）
四月一日、国民学校令実施
前宮尋常高等小学校　を廃し
前宮国民学校　と改称
十二月八日、英米両国に対し宣戦布告
大東亜戦と改称
国策順応に関する学校行事
1、四月　楮苗一、六〇〇本、ラミー根二三俵を植付
2、六月　乾燥桑皮供出、二八八メ、
代金一三〇円一銭
3、六月七月八月、麦刈、桑畑除草、養蚕、田植、草刈等の手伝。
忠霊塔基礎工事用の礫運び。
4、九月、学校自警団組織。
5、九月、薬草「ゲンノショウコ」採集、乾燥五俵、十三貫九〇〇匁、代金五円七九銭。
6、十月、銅、鉄回収運動、二宮金次郎銅像、鉄火鉢、鉄線等学校内のそれらしい物を集めて合計十三メ九百匁を供出。
7、十一月、乾燥甘藷葉柄一三メ二〇〇匁供出。
代金五七円二八銭。

8、十二月団栗三〇八斗を集め七七俵。
代金二一五円六〇銭。
9、一月、古レコード、針、ペン先等供出。
約三メ目。
代金五円七六銭。
戦争関係行事
1、入営出陣者の武運長久祈願祭参列。
2、靖国神社合祀臨時大祭遙拝。
3、四月本村出身の戦死者写真を講堂に掲ぐ。
4、出征軍人慰問の作文、書画を送る。
5、村葬に参列
九月八日　奥村美代司君
三月十日　松波　正夫君
6、二月七日、仏教会半鐘献納式に参列。
7、十月十九日、村主催の戦病死者慰霊祭に参列。
8、十二月九日、大東亜戦必勝祈願祭に参列。
9、十二月十一日、全校児童戦勝祈願村内神社巡拝。
10、二月十八日、大東亜戦争第一次祝賀式に参列。
二月十六日シンガポール陥落。
11、配給品の取扱
ゴム底布靴、十一回に亘り九七六足
靴下　二回　七二三足
児童用服　四回　九三着
ズロース　若干
ゴムボール　若干
その他
七月六日、岐東学童野球大会において高等科優勝
三月三日、稲葉郡東部六校の高等科児童剣道大会に優勝
十月七日、皇太神宮御神木、当村北島前の木曽川原にお立寄りになるので全校児童奉拝。
（二十年毎に木曽川をお下りになる）
旗行列で村内各神社巡拝。

（前篇終結）

本校の沿革（後編）

昭和十七年　より
昭和四十七年　まで

小学校長　横幕信夫

昭和十七年度

児童数	初等科	四二二名
	高等科	九九名
	計	五二一名

昭和十八年度

児童数	初等科	四一六名
	高等科	一一二名
	計	五二八名

昭和十九年度

児童数	初等科	四一〇名
	高等科	一〇七名
	計	五一七名

昭和二十年度

児童数	初等科	四〇一名
	高等科	一一三名
	計	五一四名

昭和二十一年度

児童数	初等科	三九九名
	高等科	一〇一名
	計	五〇〇名

右記、昭和十七年度より昭和二十一年度の間は沿革等の記録もいっさい残らず、学校といえども例外でなくいかに戦争の苛烈さに追いまくられたかを物語っているようです。

昭和二十二年度

本年度経常費予算高　一二、五一九円也

児童数　四三六名

学校長異動　（三月三十一日付）

牧田芳太郎　厚見小学校へ転出

加藤　龍勝　各務青年学校より転入

四月四日　教育基本法（昭和二二・三・三一）学校教育法（昭和二二、三・三一）制定せられ九箇年の義務教育として新発足する。

四月七日　労働基準法制定さる
五月一日　教職員の適格審査会に関する規程
　　文部省訓令第三号
五月三日　日本国憲法施行さる
　　同記念式並中学校開校式（講堂）
五月二十一日　教職員の除去就職禁止等に関する政令
六月三日　茶摘み並に製茶作業実施
十月七日　北舎屋根葺替並に硝子戸修理
　　二十二年度営繕費五九、六七二円
十月二十一日　国家公務員法制定
二月二十六日　当用漢字別表　内閣告示第一号
　　義務教育の期間に読み書きともにできるよう指導すべき範囲
　　当用漢字音訓表
三月二十五日　卒業式挙行
　　卒業生　八一名
　　卒業記念品　花瓶参箇

昭和二十三年度

本年度経常費予算高　一六七、三六〇円也
児童数　四二七名
四月十四日　学校清潔方法。文部省訓令第十二号
五月二十一日　茶摘み並に製茶作業実施
六月三十日　予防接種法。法律第六八号
七月十日　教科書発行に関する臨時措置法（法律第一三二号）
七月十五日　勅語謄本を返還する。
同　教育委員会法。法律第一七〇号
七月二十九日　知多半島海岸見学。五、六年児童
七月三十一日　予防接種法施行令。政令第一九七号
八月十日　予防接種法施行規則。厚生省令第三六号
八月十三日　教科書発行に関する臨時措置法施行規則
　　文部省令第十五号
八月三十一日　北舎壁塗替並講堂模様替屋根葺替
　　経費十一万三千七百六十円也
十月三日　オルガン寄贈
　　永井良一氏　永井盛二氏　後藤新平氏
　　丹羽正年氏

十月五日　県教育委員選挙が実施された。
十一月十二日　小学校学籍簿についての実施説明あり。
十一月十九日　岐阜県教育委員会地方事務局設置規程
　　教委規則第三号
十一月二十四日　「父母と先生の会」参考規約、文部省発行第三一九号
三月一日　校舎樋修繕、硝子入替、井戸修理
　　経費五万二千二百九十円也
三月二十日　自動秤　参箇　婦人会寄贈
三月二十四日　卒業式挙行
　　卒業生　六八名
　　卒業記念品　五球スーパー　壱台

昭和二十四年度

本年度経常費予算高　三七七、〇一〇円也
児童数　四三三名
四月二十八日　当用漢字字体表実施に関する件
　　内閣訓令第一号
　　当用漢字字体表　内閣告示第一号
五月二十六日　茶摘み並製茶作業実施
六月七日　航空用低温寒暖計　寄贈　苅谷利光氏
七月六日　学校教育法施行規則　教委規則第一号
七月九日　予防接種法施行細則。規則第四三号
八月五日　海の見学。五、六年児童
同　岐阜県教育研究所規程。教委規則第一二号
八月三十一日　中学校校舎新築落成式挙行。
九月二十日　育友会員多治見市養正小学校視察。
十一月二十一日　知能検査　全校実施
十二月二十日　宿直室畳修理、硝子戸新調修理、校舎修繕、硝子入替
　　経費　一三八、四五四円也
二月十七日　本校創立七十七周年記念式挙行
　　感謝状贈呈者
　　村長　仙石藤治郎　一二年在任
　　校長　永井牛太郎　一一年在任
　　訓導　丹羽　久克　三六年在任
　　同　石屋　良仙　一五年在任
　　同　加藤　嘉雄　一三年在任

訓導　遠藤　卓朗　一六年在任
同　国定　浜を　一一年在任
同　太田　千弘　一二年在任

当日児童作品展覧会並学芸会を挙行。
簡易楽器一式　寄贈　育友会員一同
三月十日　ドンブリ、西洋皿各百箇　寄贈　婦人会
三月二十二日　卒業式挙行
卒業生　七〇名
卒業記念品　ポータブル蓄音機

昭和二十五年度
本年度経常費予算高　三四五、九二〇円也
児童数　四三三名
五月六日　サムマータイム初る
五月十六日　中庭に花壇を新設。
五月二十三日　茶摘み並製茶作業実施
八月十六日　海の見学　富田浜へ　五・六年児童
九月二十日　新岐阜、前宮間バス開通祝賀会
二月七日　学芸会を開催

三月二十日　伊勢修学旅行。卒業学年
三月二十六日　卒業式挙行
卒業生　六八名
卒業記念品　置時計　拾弐箇
本年度営繕
講堂大口戸新調四本　井戸修理
倉庫、宿直室修理、硝子、その他
合計　参万五千六百七拾六円也

昭和二十六年度
本年度経常費予算高　一、二一三、六六〇円也
児童数　四四一名
五月六日　サムマータイム初る
六月七日　少年赤十字団入団宣誓式に参加する。
七月三十日　海の見学。新舞子　五、六年児童
八月二十日　ＪＲＣトレーニング二日間実施。
裁縫室　六年一部
八月二十九日　ＪＲＣトレーニング二日間実施。
裁縫室　六年二部

九月二十五日　本日よりトラホーム患者を毎日治療する。
十二月六日　研究発表会開催
主題　表現教育について
臨席　横山指導主事　林教育課長
永井指導主事
参加者　郡内教職員　一〇〇名
村長、教育委員、育友会長
一月十八日　水道工事完成
ポンプ　一一五、一〇〇円
電気工事　一二、七〇〇円
アイアントラス代　二五、〇〇〇円
その他　一二、二三七円
合　計　一六五、〇三七円
三月六日　育友会員、他校参観
大垣市興文小、南小、東中学校
三月十五日　修学旅行。伊勢方面・六年生
三月二十五日　卒業式挙行
卒業生　七〇名

卒業記念品　時報用ベル一式
三月三十一日　本年度営繕
校舎講堂修繕　四三、九四九円
雨樋修理　二九、〇四六円
工作室模様替　七四、六九〇円
講堂、校舎塗装　一一四、〇四〇円
配電工事　七、六八〇円
給水工事　一六五、〇三七円
排水工事　一八六、七七八円
硝子　一九、五六七円
その他　一一、三九三円
合　計　六五一、〇八二円

昭和二十七年度
本年度経常費予算高　八〇一、二一〇円也
児童数　四一六名
四月二十六日　春の遠足実施。
一年松本、二年犬山
三、四年入鹿池　五、六年三田洞

四月三十日　育友会総会。講師　西尾教育委員長
五月三日　講和発効独立憲法発布五周年記念式
五月九日　育友会員他校参観　城山小、大垣興文小
五月二十九日　茶摘み作業実施
六月六日　本日より農繁休業　一週間
七月十七日　校歌選定発表音楽会
　　作詞　前宮村長　小野木紋一氏
　　作曲　岐大教授　河野信一先生
七月二十四日　育友会総会開催
七月二十六日　五、六年海の見学
八月二十六日　校内トレーニングセンター実施
九月二十六日　岐阜測候所見学、五年生全員
十月十六日　小中合同運動会実施。
十月十八日　秋の遠足実施。
　　一、二年藪島　三、四年笠松
　　五、六年金華山
十月二十日　修学旅行、伊勢方面・六年生
十月二十八日　本日より農繁休業、一週間
十月三十一日　教育懇談会（役場、教育委員、学校）

十一月十日　立太子礼と成年式の祝賀式挙行。
十一月二十三日　ＪＲＣ県大会に出席
二月十四日　日食八時三十七分五十四秒
　　～十時四十四分四十二秒
二月十五日　本校創立記念日
三月五日　学芸会開催
三月十四日　ＪＲＣトレーニングセンター　四年
三月二十六日　卒業式
　　卒業生　六四名
　　卒業記念品　噴水池

昭和二十八年度
本年度経常費予算高　九六六、四三〇円也
児童数　四二六名
四月二十三日　育友会総会。講師　後藤一郎氏
四月二十六日　春の遠足実施
　　一、二年川崎山　三、四年美濃太田
　　五、六年多治見
五月一日　保育園開園式並入園式挙行。

五月八日　育友会員他校参観。岐阜市鷺山小へ
五月九日　ＪＲＣ入団式挙行。和田主事臨席
五月二十六日　茶摘み作業実施。
六月三日　教育懇談会　役場、教委、学校
六月九日　本日より農繁休業　一週間。
六月二十二日　トラホーム治療開始。
七月二十四日　育友会総会
七月二十七日　海の見学　長浦、五、六年
八月七日　ＪＲＣトレーニング実施、六の一
八月十四日　ＪＲＣトレーニング実施　五の二
八月十六日　同窓会再開打合会を開催
八月十六日　ＪＲＣトレーニング　五の一　和田講師
八月二十四日　ＪＲＣトレーニング　六の二
九月五日　夏休み作品展示会を行う。
九月十九日　ＪＲＣアルバムを発送する。
九月二十一日　育友会総会　桜井良治氏
十月九日　沖縄への義損金を募る。
十月十六日　秋季大運動会実施
十月二十日　秋の遠足実施。全校大山へ

十月二十九日　本日より農繁休業　一週間
十二月一日　みそ汁給食開始。
十二月二十五日　育友会総会
二月十五日　本校創立記念日
二月二十四日　学芸会開催、父兄観覧。
二月二十六日　教育懇談会　予算について
三月十三日　校内ＪＲＣトレーニング実施、四年
三月十八日　修学旅行。京都、奈良方面、一泊二日
三月二十五日　卒業式
　　卒業生　七三名
　　卒業記念品　電蓄壱台

昭和二十九年度
本年度経常費予算高　七八〇、五〇〇円也
児童数　四四八各　名
四月二十六日　春の遠足実施
　　一、二年蓮如様　三、四年岐阜公園
　　五、六年美濃町
四月三十日　育友会総会

講師　尾関川島村教育長

五月十四日　育友会他校参観

日吉第一小学校　土岐津小学校

五月三十日　ＪＲＣ登録式に参加。四年以上

五月二十五日　トラホーム洗眼開始。

五月二十七日　茶摘み作業実施

六月十一日　本日より農繁休業　一週間

七月十六日　教育懇談会

役場三役　教育委員　学校

七月二十四日　育友会総会

七月二十七日　海の見学、富貴海岸、五、六年

七月二十八日　ＪＲＣトレーニングセンター実施、三日間

松波教諭　児童四名　於多治見市

八月五日　山脇部落育友会開催。

八月六日　六年生トレーニングセンター実施、二日間

八月二十日　育友会主催の映写会を開催。

九月十四日　台風のため臨時休校

九月十七日　五年トレーニングセンター実施、二日間

九月二十五日　育友会総会

講師　朝原教育課長

九月二十八日　六年修学旅行　二日間　京都、奈良

十月十六日　秋季大運動会　（小・中合同）

十月二十九日　育友会視察　中津川市

十二月二十五日　育友会総会

一月十七日　学校給食に関する懇談会（国井係長）

二月七日　育友会臨時総会（学校給食の件）

二月十七日　稲羽町発足（前宮・更木・中屋三村合併）

三月三日　学芸会開催（二日間）

三月二十五日　卒業式

卒業生　七一名

昭和三十年度

本年度経常費予算高　一、三二八、三〇〇円也

児童数　四四〇名

四月二十六日　春の遠足実施

全学年　犬山遊園地

四月二十八日　育友会総会

五月六日　共和中学校落成式

五月十一日　ＪＲＣ登録式挙行

和田主事臨席

五月十三日　育友会他校参観

大垣市

五月十五日　写生大会に参加

於岐阜市　参加児童　六三名

六月二日　本日より農繁休業　三日間

七月二日　校内トレーニングセンター実施、二日間

七月二十五日　育友会総会

七月二十八日　海の見学　大野海岸　五、六年生

八月十日　トレーニングセンター実施、六年生

於不動山

八月二十二日　学校給食調査のため県より来校

九月二十九日　国旗掲揚塔完成

十月三日　郡消防演習、全校見学、運動場にて午前中実施さる。

十月四日　給食室竣工

十月十六日　運動会（小・中合同）

十月二十一日　秋の遠足実施

一、二年犬山　三、四年東山動物園

五、六年養老公園

十月二十二日　子ども銀行全国表彰を受く。

十一月一日　本日より農繁休業　三日間

十二月二十六日　育友会総会

一月二十二日　郡童話会に児童二名参加

二月十四日　学芸会開催。

二月二十五日　校下社会教育大会開催。

三月二十四日　卒業式

卒業生　八〇名

昭和三十一年度

本年度経常費予算高　九二九、九〇〇円也

児童数　四六一名

四月十六日　育友会総会

四月二十五日　不動山大祭のため、臨時休校とする。

四月二十六日　春の遠足実施。

一、二年犬山　三、四年入鹿池

五、六年谷汲山
五月十一日　ＪＲＣ登録式挙行。
和田主事来校
五月十八日　育友会他校参観
大垣市方面
五月二十二日　茶摘み並製茶作業実施。
五月二十九日　米国児童本校参観。一、二年各三〇名
六月四日　アメリカンスクール三年生来校、三〇名
六月九日　文部省給食課長来校
七月十三日　アメリカンスクールと親善野球試合
同　トレーニングセンター実施、二日間
四年生
七月二十二日　自転車置物、宿直炊事場増改築
七月二十五日　育友会総会
七月二十七日　海の見学、五、六年
八月九日　水道拡張工事完成
八月十一日　トレーニングセンター実施、六年生
九月八日　稲羽町庁舎落成祝賀式挙行。
全校児童旗行列に参加。
九月九日　アメリカンスクールと親善野球を行う。
九月二十日　修学旅行。二日間
京都、奈良方面　六年生
十月十六日　運動会実施（小・中合同）
十月二十日　交通安全の話
警察署より来校。全校児童聴講。
十月二十六日　秋の遠足実施
一、二年岐阜公園　三年東山動物園
四、五年丸山ダム　六年岐阜市見学
十月三十一日　アメリカキャンプ見学
職員六名、児童十名参加。
十二月十日　育友会臨時総会
一月十七日　新春マラソン大会実施。四年以上
二月二十五日　学芸会開催。
三月二十五日　卒業式
卒業生　六九名
昭和三十二年度
本年度経常費予算高　六八八、六三〇円也

児童数　四八二名
四月一日　学校長異動
加藤龍勝　退職
坪内　弘　那加中学校より
四月七日　全国植樹祭（両陛下をお迎えして―谷汲山）
に学校長及児童代表六年丹羽和彦参列
四月十七日　講堂ステージ完成
請負者　那加左高木材
費用　六八、三〇〇円
四月二十六日　春の遠足実施
一、二年岐阜公園　三、四年三田洞
五、六年名古屋港
五月三日　中学校創立十周年記念式挙行。
五月六日　育友会総会
講演　宮崎教育課長
五月九日　育友会他校参観
一宮市神山小学校　施設優秀校
〃　向山小学校　育友会活動
五月十九日　育友会の廃品回収実施。
七月十六日　流感のため二日間臨時休業。
及び三日間の午前授業日をとる。
八月十日　海の見学。五、六年
八月二十五日　郡お話大会に参加。
五年丹羽勝子、六年田中智子
九月十九日　修学旅行　京都・奈良方面六年生
九月二十四日　むしば予防の講演と映画挙行。三年以
上参加。
十月十六日　運動会挙行。
十月十六日　旧学籍簿、性行録、成績考査簿の製本完
成。計二十九冊　製本代　六、六七〇円
十月二十三日　秋の遠足実施
十二月九日　講演会　小、中育友会、婦人会主催
講師　竹鼻第一小学校長　大沢峯太郎氏
十二月二十七日　保育園起工式挙行。
一月二十一日　マラソン大会実施。四年以上と三年男
子の有志参加。
二月二十四日　学芸会開催。二日間
三月二十五日　卒業式

卒業生　四七名

昭和三十三年度

本年度経常費予算高　八〇〇、一三〇円也

児童数　五〇七名

四月十日　保育園落成式挙行。

四月二十二日　春の遠足実施

一、二年農大植物園

三、四年名古屋城　五、六年大洲河原

四月二十五日　同窓会主催の映画会開催

四月三十日　育友会総会（小・中合同）

五月九日　育友会他校参観

五月二十四日　茶摘み作業実施。四年以上参加。

六月十日　健足運動実施。午後一時より全校児童。

六月十四日　国旗掲揚塔並回旋塔の塗装。

六月二十日　放送局、プラネタリウム見学。四年生

八月九日　海の見学　河和海岸、五、六年生参加。

九月八日　理科振興法による

理科教育設備補助金の交付決定さる。

国庫補助　金五万円也

九月二十四日　修学旅行。京都・奈良方面、六年生

十月十六日　運動会実施。

十月二十三日　講演会実施。育友会、婦人会の共催。

講師　戸本　貢先生

十月二十八日　秋の遠足実施。

一、二年蓮如様　三、四年笠田分校

五、六年琴塚

十一月二十三日　理科室の暗幕設備をする。

二五、九〇〇円　育友会の寄付。

十二月四日　健足運動実施。午後一時より

一月四日　講堂の暗幕設備をする。

三九、〇〇〇円　同窓会寄付。

一月十三日　マラソン大会実施。四年以上参加。

二月八日　同窓会主催の映画会開催。

二月十三日　学芸会開催。二日間

三月二十五日　卒業式

卒業生　六九名

天幕二張　二間×三間　二四、〇〇〇円

太綱　五十米　九、二五〇円

昭和三十四年度

児童数　五〇四名

四月二十日　育友会総会

四月二十二日　春の遠足実施

一、二年岐阜公園　三、四年丸山ダム

五、六年名古屋港

四月二十五日　同窓会主催の映画会開催。

五月二十一日　茶摘み作業実施。三年以上参加。

六月四日　アイヌ無形文化観賞会を開催。

六月十二日　健足運動実施。

八月三十一日　中学校東校舎の生徒、稲羽中学校新校舎へ移転。

九月十七日　修学旅行。京都、奈良方面　二日間。

九月十八日　稲羽中学校落成式挙行。

九月二十六日　台風十三号（伊勢湾台風）襲来

校舎等の被害額

見積申請　六六九、九〇〇円

大蔵省査定　六四九、四〇〇円

補助額　四八七、〇〇〇円

十月八日　運動会実施。

十月二十七日　秋の遠足実施。

一～四年自衛隊

五、六年円城寺河原

十一月二十一日　郡話し方研究会に児童四名参加。

十二月四日　健足運動実施。

一、二年三軒屋　三、四年稲羽中学

五、六年校下一周

十二月七日　川崎自動車工場見学実施。

四、五年全員参加。

十二月二十日　ストーブ　壱台　九、〇〇〇円

石炭加熱式のを職員室に設置。

電気ストーブ　壱台　二、二三〇円

校長室に設置。

以上育友会寄付

一月四日　同窓会総会と映画会を開催する。

二月十二日　学芸会開催。二日間
三月二十五日　卒業式
　　卒業生　一〇〇名
三月二十六日　旧校舎木造瓦葺平屋（倉庫、宿直室）
　　を両内野部落に売却のため取りこわす。

昭和三十五年度
児童数　四五一名
四月二十五日　同窓会主催の映画会開催。
四月二十七日　春の遠足実施
　　一、二年更木龍神　三、四年大垣城
　　五、六年多治見虎溪山
五月二十日　育友会他校参観
　　多治見市精華小他
六月一日　健足運動実施。
　　一、二年三軒屋　三、四年松本のお宮
　　五、六年更木龍神
六月四日　畳表替え実施。
　　礼法室、宿直室、教員住宅全部
　　計七二畳　四〇、一五〇円
六月十日　ミュージックサイレン取付完成。
　　前年度の育友会寄付　二九、五〇〇円
六月二十七日　足洗場完成
　　育友会の奉仕作業　七、七〇〇円
七月二十日　旧校舎木造瓦葺二階建取壊し。
　　各務原浅野氏に売却
七月二十四日　バックネット、渡廊下屋根、鉄棒
　　ペンキ塗装
七月三十日　育友会による廃品回収実施。
八月二日　海の見学　河和海岸　五、六年生
八月二十六日　新校舎二階に手摺り取り付け。
　　七四、〇〇〇円
九月十日　旧校舎瓦葺平屋取壊し
　　長瀬　進氏に売却
十月三日　運動会実施。
十月十日　修学旅行。京都、奈良方面。六年生
十月二十五日　秋の遠足実施。
　　一、二年桃太郎神社

　　三、四年おがせ池　五、六年ゴルフ
　　場
十一月二十六日　図書室の閲覧机　八脚　椅子五〇脚
　　育友会寄付　九〇、〇〇〇円
十二月二十二日　テープレコーダー購入。
　　四二、五〇〇円
十二月三十日　渡廊下のトタン葺完成。
　　職員室から旧職員室までと旧南舎か
　　ら講堂まで新築。
一月十三日　新春マラソン大会挙行。
一月十三日　テレビ壱台十七インチ
　　寄付者、岐阜市玉姓町　丹羽虎吉氏
　　（本校卒業生）
一月二十八日　渡廊下の腰板張り、校庭の土管埋めを
　　育友会の奉仕作業で実施。
二月九日　学芸会開催。二日間
二月二十八日　六年生。社会見学。
　　電報電話局、県会議事堂、新聞社等
三月十七日　栗石及び砂利、砂を多量に散布する。
　　長平、丹羽恒雄氏の寄付。
三月二十四日　卒業式
　　卒業生　八十八名

昭和三十六年度
児童数　四二四名
四月二十五日　同窓会主催の映画会開催。昼夜二回映
　　写さる。
四月二十六日　育友会、婦人会合同総会開催。
四月二十七日　春の遠足実施。
　　一、二年犬山　三、四年名古屋城
　　五、六年名古屋港
四月二十八日　応接室肘掛椅子、弐脚を購入
　　寄贈者、婦人会。
五月二十五日　茶摘み、土管埋め作業実施。
　　育友会と三年生以上参加。
六月二日　健足運動実施。
　　低学年下切、中学年上中屋お宮。
　　高学年自衛隊横。

七月十日　育友会総会
講師　伊深正眼寺老師
七月二十八日　育友会による廃品回収実施。
八月十一日　夏季キャンプ実施。六年生と職員参加。
九月十六日　台風十八号のため臨時休校をする。
十月三日　運動会実施。
十月十二日　修学旅行　京都、奈良方面。六年生
十月二十六日　秋の遠足実施。
低中学年自衛隊、高学年小伊木磧
十二月三日　自転車置場付近コンクリート作業実施。
育友会奉仕作業による。
栗石、砂利、砂は丹羽恒雄氏寄贈。
十二月五日　健足運動実施。
低学年両内野、中学年小山。
高学年上中屋前松原
一月十二日　新春マラソン大会挙行。
一月二十日　郡話し方大会に
一年生武山秀隆。四年生田中紀夫参加。
二月八日　学芸会開催。二日間
三月十四日　六年生の社会見学。
県議事堂、日々新聞社、電話局等。
三月二十三日　卒業式
卒業生　八十九名
昭和三十七年度
児童数　三八九名
四月十六日　育友会総会
四月二十七日　旧北校舎西半分及便所財産処分入札
校舎落札　二五一、〇〇〇円
蘇原町　山口隆太郎氏に
便所落札　二〇、〇〇〇円
稲羽町　杉山一治氏に
四月二十七日　春の遠足実施。
一～四年岐阜公園、長良川畔
五、六年今渡発電所
四月三十日　プール建設の入札終了。
落札、田中組田中大三氏と契約。
五月七日　育友会他校参観。

多治見市精華小学校
五月八日　プール建設起工式　六年生会員参列
五月二十三日　茶摘み作業実施。
七月二十六日　プール竣工式挙行。
総工費　五二六〇、八〇九円
模範水泳に兵藤秀子女史来校。
八月十二日　PTA臨時総会開催。
八月十七日　夏季キャンプ実施。六年生と職員参加。
八月二十六日　台風十四号のため相当の被害あり。
九月十三日　運動場地ならし及転圧のため自衛隊の奉仕作業を受く。
十月三日　運動会実施。
十月十一日　修学旅行。京都、奈良方面。二日間
十月二十五日　秋の遠足実施。
低学年蓮如様　中学年ライン大橋
高学年鵜沼大安寺。
十一月一日　校舎屋根瓦葺替え作業開始。
十二月八日に完了する。
十二月三日　健足運動実施。
低学年三軒屋　中学年稲羽町役場
高学年長平山
二月十六日　郡話し方大会に
二年生丹羽彦雄、六年生永井百合子参加する。
三月十五日　藤棚基礎工事着工
十九日に完成
三月二十三日　卒業式
卒業生　八十二名
昭和三十八年度
児童数　三五八名
四月一日　各務原市小学校及中学校設定条例制定に伴い各務原市立稲羽東小学校と改称する。
○学校長異動
坪内　弘　伊奈波地方事務局へ
清水　彰　益田郡下呂町立中山小学校より
四月二十六日　春の遠足実施
低学年犬山遊園地

中学年東山動物園　高学年名古屋港

五月十六日　ＰＴＡ他校参観

揖斐郡大野小へ。

五月二十七日　茶摘み作業実施。全校児童参加。

七月七日　ＰＴＡ奉仕作業実施。

溝ざらえ、便所作り等。

九月二十七日　自衛隊による校庭整地作業。

九月二十九日　運動会実施。

十月九日　修学旅行　京都、奈良方面。六年生

十月十六日　市民運動会、市制祝賀会に学校長出席。

十月二十四日　秋の遠足実施。

低学年旭山　中学年岐大植物園

高学年おがせ池。

十月二十七日　各務原市育成会（特殊教育）結成式に

学校長出席。

十一月十四日　子ども科学教室開催。

講師　西野成俊先生　三年生以上参

加。

十一月十八日　特別講演会開催。五、六年生と父兄、

職員参加。講師　岩井　肇先生。

二月十四日　学習発表会（旧学芸会）開催。

低学年は午前、高学年は午後に実施。

三月五日　六年生の社会見学

県会議事堂、裁判所、新聞社等。

三月二十四日　卒業式

卒業生　七十四名。

昭和三十九年度

児童数　三三四名。

四月五日　不動山国旗掲揚塔竣工式に学校長参列。

四月十二日　稲羽町交通安全協会結成式　於本校。

四月十四日　ＰＴＡ総会。

四月二十三日　春の遠足実施

低学年犬山市。高学年岐阜市。

四月二十九日　プール付近整地作業実施。大日本土木

による作業。

五月十一日　ＰＴＡ他校参観

恵那市大井小学校。

五月十六日　自衛隊鼓隊来校、講堂にて模範演奏。

三年以上見学

五月二十二日　茶摘み作業実施。

ＰＴＡ役員、全校児童参加。

六月二十日　新潟地震募金活動を児童会により実施。

六月二十九日　すべり台、鉄棒の整備工事着工。

沢田工業施工。

七月十二日　父親学級開催

日曜日のため翌日と繰返授業

七月二十一日　運動場の撒砂、整地作業

丹羽建材により七車分散布。

八月七日　夏季キャンプ実施。

五、六年生と職員参加。

八月九日　両親学級開催。

講師　坪内弘校長、後藤源二先生

八月十九日　自衛隊による校庭整地作業　一週間

九月七日　給食室施設改修工事着工、十月一日に完成。

岐阜市精巧社による

九月二十五日　台風のため臨時休校

九月二十七日　運動会実施

十月十日　東京オリンピック開会式

全校児童に対しテレビ視聴指導。

十月十二日　修学旅行　京都、奈良方面、六年生

十月二十二日　秋の遠足実施

低学年岐大植物園

中学年県営グランド。高学年名古屋港

十月二十五日　校庭の池に対する水道工事完了

二月三日　積雪多量のため午後早退一斉下校。

三月二十四日　卒業式

卒業生　六十七名

昭和四十年度

児童数　三一一名

四月一日　学校長異動

清水　彰　岐阜市方景小学校へ

永縄半助　羽島市堀津小学校より

四月二十一日　ＰＴＡ総会

四月二十三日　春の遠足実施

低学年犬山　中学年岐阜県庁
高学年丸山ダム

五月一日　校庭下羽島用水本日より流水開始
五月十四日　ＰＴＡ他校参観
中津川市南小学校
五月十七日　複式学級（現基本学級）を編成、発足する。
五月十九日　修学旅行　京都、奈良方面。六年生
五月三十一日　廊下ライン引き、渡り板修理、校庭新設道路、花びん作り等の作業実施。
職員と青年学級生との共同作業による。
六月二日　茶摘み作業実施。ＰＴＡと全校児童参加。
八月九日　夏季キャンプ実施　五、六年生と職員参加
九月十日　台風のため臨時休校
九月二十六日　運動会実施
十月二十日　岐阜国民体育大会の国体旗リレー送迎。
四年以上参列
十月二十五日　岐阜国体自由参観日で臨時休校

二月十六日　学習発表会開催。
低学年午前、高学年午后
三月二十四日　卒業式
卒業生　五十名

昭和四十一年度
児童数　三〇九名
四月二十一日　ＰＴＡ総会
四月二十七日　春の遠足実施
低学年岐阜公園　中学年新県庁
高学年岡崎公園
五月十四日　修学旅行　京都、奈良方面、六年生
五月二十五日　茶摘み作業実施。ＰＴＡ役員と全校児童参加。
六月十二日　通学道路整備作業。
ＰＴＡ役員及び学校長、教頭参加。
七月二十六日　豊川市牛久保小学校視察
全職員参加
八月七日　夏季キャンプ実施　五、六年生と職員参加

九月二十六日　運動会実施。
十月十日　国民体育の日　五、六年生鼓笛行進に参加。
十月十八日　秋の遠足実施。
低学年犬山　中学年岐阜プラネタリウム　五年都築紡績　六年県庁、裁判所等
二月十九日　父親学級開催、翌日代休とする
二月二十六日　矢熊山裏の通学路補修作業
東町ＰＴＡ役員、父兄による。
三月二十四日　卒業式
卒業生　五十七名

昭和四十二年度
児童数　三〇三名
四月一日　学校長異動
永縄半助　各務原市那加第一小学校へ
坂井　肇　羽島郡笠松町下羽栗小学校より
四月二十一日　ＰＴＡ総会
四月二十七日　春の遠足実施
低学年梅林公園　中学年犬山城
高学年名古屋港

五月十六日　修学旅行　京都、奈良方面　六年生。
六月一日　ＰＴＡ他校参観
大津市晴嵐小学校。
六月十九日　学校建築促進委員会発足
校下各種団体長
学校建築促進懇談会開催。
市長・市教育長、財政課長、校下委員参加。
六月二十九日　給食室の洗濯機取付け作業
中部工業による
七月九日　父親学級開催。
七月二十一日　騒音調査のため防衛庁より来校
七月三十日　夏季キャンプ実施　五、六年生と職員参加。
八月二十七日　校舎付近除草作業
ＰＴＡ役員と全職員による。
九月二十四日　運動会実施
十月十六日　市民運動会挙行。
十月十九日　校舎建設につき、市局局と天名設計事務

所より計六名来校。
十月三十日　校舎建設促進委員会開催
十一月一日　新校舎設計打合せのため市役所に出頭
校長、教頭、小島教諭。
一月二十七日　マラソン大会実施
二月二十一日　校舎建設促進委員会開催
三月二十三日　卒業式
卒業生　五十七名

昭和四十三年度
児童数　三〇一名
四月十九日　ＰＴＡ総会
四月二十三日　春の遠足実施
低学年蓮如様松本　中学年おがせ池
高学年おがせ池から奥方面。
五月十四日　茶つみ作業実施
ＰＴＡ役員　地区学級委員、全校児童
参加。
五月二十二日　修学旅行　京都、奈良方面、六年生。
五月二十三日　北海道十勝沖地震見舞金募集。
児童、職員　合計六、〇五八円
五月二十四日　学校建設委員会開催
五月二十六日　ＦＢＣ表彰式に参列
名古屋市公会堂。堀場教諭と児童二
名。
六月一日　学校建築設計打合せ会。
校長、教頭、小島教諭出席
六月五日　ＰＴＡ他校参観
多治見市池田小学校
七月二十四日　校舎建設につき防衛庁から来校視察
七月二十九日　現有校舎実測のため市建設課来校
七月三十日　講堂塗装工事作業。
岐阜市東海ペイント会社による。
八月四日　故武藤市長の市葬に参列
校長以下六名
八月七日　赤十字トレーニングセンターに参加。
揖斐郡春日中学校に於て三日間実施され
ＰＴＡ四名と児童四名出席する。

九月一日　市陸上第一スポーツ少年団結成式
赤座教諭、児童十名参列。
九月二十九日　秋季運動会
十月二十二日　秋の遠足実施。
低学年名古屋動植物園
中学年多治見市　高学年関ヶ原町。
十月二十三日　明治百年記念式典挙行。
十二月一日　ＦＢＣ秋花壇表彰式に出席。
堀場教諭、児童四名。於中日ビル
一月一日　新年祝賀式は本年度より学校では挙行しな
いことになった。
二月二十三日　校下歩け歩け運動実施
コース、草井渡し～不動山～学校
約一八〇名参加
三月一日　校庭の樹木、岩石移転作業を三日間にわた
り、常川造園とＰＴＡ常任委員により実施。
三月六日　校内マラソン大会実施
三月二十四日　卒業式
卒業生　五十一名

昭和四十四年度
児童数　三〇八名
四月五日　新校舎第一期工事完了につき、一部児童の
教室移動実施。
四月二十二日　春の遠足実施。
低学年草井河原
中学年飛保曼陀羅寺　高学年犬山市
四月二十一日　ＰＴＡ総会
五月十四日　修学旅行　京都、奈良方面、六年生
五月二十日　茶摘み作業実施。
ＰＴＡ役員と全校児童参加。
六月八日　ＦＢＣ表彰式に参列。
堀場教諭、児童二名。於岐阜商工会議所
六月十五日　ＰＴＡ奉仕作業
プールサイド修繕、溝ざらえ、草刈り
等。
六月二十二日　市民体育会にスポーツ少年団参加。
七月二十七日　夏季キャンプ実施　五、六年生と職員
参加。

七月三十一日　水泳教室を三日間にわたり開催。
　　自衛隊より講師三名来校。
八月三十一日　ＰＴＡ奉仕作業
　　運動場、校舎付近の清掃、修繕等。
九月十日　集団疾病発生のため三日間臨時休校。
　　原因不詳。
九月二十八日　運動会実施。
十月十日　市民体育大会参加。
　　ＰＴＡバレー、スポーツ野球少年団。
十月二十日　秋の遠足実施。
　　低学年岐阜公園　中学年千本松原
　　高学年名古屋港
十二月五日　音楽会に参加。
　　二、四、六年生　於稲羽中学校
十二月十四日　花だんコンクール表彰式に参列。
　　堀場教諭、児童二名　於中日劇場
二月七日　校内マラソン大会実施
三月二十四日　卒業式
　　卒業生　九十三名
三月二十六日　新校舎第一期工事完成祝賀式挙行。

昭和四十五年度

児童数　三一九名
四月一日　学校長異動
　　坂井　馨　退職
　　横幕信夫　岐阜教育事務所より
四月二十二日　遠足実施
　　低学年中屋川原　中学年苧ヶ瀬池
　　高学年犬山城
四月二十七日　ＰＴＡ総会
五月十四日　修学旅行　京都、万博方面　六年生
五月十七日　ＦＢＣ授彰式に出席　堀場教諭他二名
　　優秀賞を受く。
六月九日　ＰＴＡ他校参観
　　土岐郡笠原小学校
六月十五日　テレビ施設見学のため笠松小学校視察
　　ＰＴＡ三役、学校側四名
六月二十八日　プールの棚修理実施。

七月九日　学校建設委員会開催
七月二十四日　夏季キャンプ実施　五、六年
七月三十一日　通学路診断を実施
　　警察署、ＰＴＡ、学校の三者による。
八月六日　水泳教室を三日間にわたり開催。
　　自衛隊より指導員三名招聘。
八月二十三日　ＰＴＡ奉仕作業実施。
　　校舎外除草と溝ざらえ等
九月三日　旧校舎の北舎解体作業開始
九月十三日　稲羽地区ＰＴＡバレー大会に参加
　　於稲羽中体育館
九月二十七日　運動会実施
十月二日　町内子ども会花壇審査。
　　ＰＴＡ三役と学校側三名により審査する。
十月十二日　秋の遠足実施
　　低学年東山動物園　中学年多治見市
　　高学年関ヶ原町
二月七日　市子ども会のなわとび大会に参加。
　　スポーツ少年団と六丁目子ども会が優秀賞を受く。
三月十八日　新校舎への移転を二日間にわたり実施。
三月二十四日　卒業式
　　卒業生　五十三名。
三月二十九日　新校舎落成式挙行
　　於新校舎図書室。市長以下多数参加。

昭和四十六年度

児童数　三四八名
四月十七日　親子方式テレビ各教室に設置完了。
　　同時にテレビカメラ、携帯カメラも購入。
四月二十三日　春の遠足実施。
　　低学年草井河原　中学年まんだら寺
　　高学年手力雄神社
五月十日　ＰＴＡ総会
五月十四日　修学旅行　京都、奈良方面　六年生
五月二十五日　茶つみ作業実施。
　　ＰＴＡ常任委員と全校児童参加。
六月九日　ＰＴＡ他校参観

大垣市安井小学校と大垣市給食センター

七月四日　女子スポーツ少年団発団式挙行。

七月十六日　夏季キャンプ実施　五、六年生と職員参加。

七月二十九日　養老郡池辺小学校ＰＴＡ来校視察。
　約五〇名

七月三十日　水泳教室を三日間にわたり開催。
　自衛隊より指導員三名招聘。

八月六日　通学路診断
　警察署、ＰＴＡ、学校の三者による。

八月十七日　スポーツ少年団県野球大会に出場して優勝。

八月二十二日　ＰＴＡ奉仕作業
　校舎外の除草作業と溝さらえ等。

九月二十八日　運動会実施

十月八日　本校百年史編集委員会発足

十月十二日　秋の遠足実施
　低学年岐阜公園　中学年養老公園
　高学年名古屋港

十一月二十日　本校丹羽美子教諭葬儀

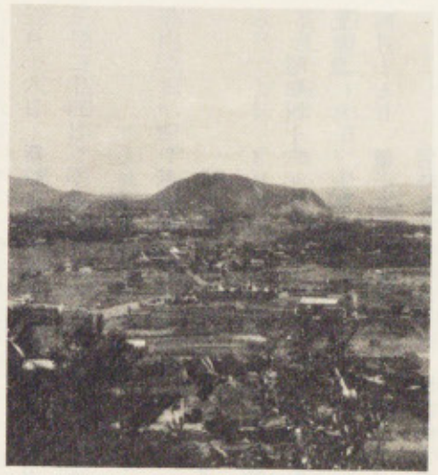
十二月七日　那加第二小学校ＰＴＡ役員来校視察。

二月六日　市なわとび大会にて優秀な成績を修める。
　スポーツ少年団、長平子ども会参加。

二月十七日　校舎正門側の植樹作業実施
　六年生とＰＴＡ役員。

三月十日　小鳥小屋完成。

三月二十四日　卒業式。
　卒業生五十六名。



なつかしの不動山頂から
東方伊木山は昔の形
両内野北島方面は開発途上

新校舎の建築

昭和四十四年より
昭和四十七年まで

小学校教頭　柴山幹夫

新校舎の建築

明治六年二月、前渡村桃春院をもって仮の校舎にあて、下切村、山脇村、野村、松本村を合併校下として、公立不惕学校を創立しそれ以来、明治二十四年十月、濃尾震災で本校舎全潰しました。大正十五年四月、学校拡張工事を行い、昭和十四年一月、全校舎を現在地に移転改築、昭和三十四年九月伊勢湾台風で校舎に被害をうけたり、又旧前宮中学校舎をゆずりうけたりし、幾多の変遷をたどってまいりました。

昭和四十四年にいたって、校下の熱意がもりあがり、近代的校舎の全面改築にふみ切りました。

実施設計は昭和四十三年度に行われ、その工事請負いは

設計者　大名建築設計事務所

工事者　大日本土木株式会社

により着工されることになりました。

昭和四十四年八月、地鎮祭が市当局、建設委員会、業者により行われ、いよいよ第一期工事が着工されました。ブルトザーの轟音の中で授業が行われ、工事は着々と進められて行きました。建築のようすをたどってみますと

昭和四十四年八月一日

瓦をなでおろし　柱は四方切りまわし
ウインチで引きたおす。　轟音と共に
地震で倒壊したごとく　あわれな姿に、
一瞬にして　先輩の　手、足の跡は
消え去っていく古い校舎

八月十二日　地鎮祭

八月十三日　いよいよ工事が始る
ブーブーブー、　わぁーすごい
威力に見とれる　あどけない児童の
顔、顔、顔
またたく間に　土は
モコ　モコとけずられていく
ときどき　かん高い子どもの
よろこびの声が　入りまじる
「くいうち」
七米余もある　セメント柱
三分の二位は　そのまゝするすると

地面に　つきささっていく
　ガチャン　ガチャン
　岩盤まで
二、三日で　くいうち　が終る
近代の威力はすごいなあ
この　くいが
重い　重い　教室を支えてくれる
私たちを支えてくれる
　風が吹いてきても――。
　地震がきても――。
びくともしないよう
手のひらを大きくひろげて
　ささえるようにして……。
「くいうち」が終ると
いよいよ　土台の　うち込みがはじまる
岩盤の高低があって
くい　は切り捨てられる
大分手間がかかる
セメントは

大きな　ミキサートラックからホースで
　きょに形わくの中へ流し込む
ようやくにして　殿堂の様相をあらわす
内装の音が
堅い堅いセメントの壁にひびいて
美しく仕上げられていく。
第一期工事完成
昭和四十五年三月二十六日
　九教室完成
屋上に登ってみると
広々とした　濃尾平野が一望に見渡せる
木曽川の洋々たる蛇行　豊かさが
実に美しい。
一部分の学級が　新校舎で授業開始
児童の喜々とした姿
よろこびが　体一ぱいにあふれ
たとえようのない　よろこびが
学校一ぱいに
みなぎる

重量感
安定感
近代感
よい子らを　しっかりとだきしめる。
第二期工事着工
昭和四十五年九月
第二期工事完成
昭和四十六年三月二十九日
やぐまのふもと　たたたんと
学びの庭の　あるところ
われらがあした　つどいきて
智徳をみがく　稲羽東校
　校歌高らかに
よろこびの声が
矢熊山に　こだま　して
新校舎が
こゝに完成した。
稲羽東小学校竣工
昭和四十六年三月二十九日

各務原市長　松原啓吉氏を招き
竣工式典が行われました。
玄関の壁に　よろこびを
永久に伝える「定礎」が　はめ込まれた
弥栄えよ
稲羽東小学校。

定　礎

この学校は岐阜基地飛行場の航空機騒音を防止するため、防衛施設周辺の整備等に関する法律に基づいて、防衛施設庁より補助金の交付を受けて完成したものである。

昭和四十六年三月十日

各務原市長　松　原　啓　吉

設計監理　株式会社大名建築設計事務所
施　工　大日本土木株式会社

校舎建築概要

☆教室数

普通教室	13	保健室	1	購売室	1
理科室	1	放送室	1	用務員室	1
〃 準備室	1	印刷室	1	配膳室	3
図工室	1	職員室	1	リフト	1
〃 準備室	1	校長室	1	映写室1	1
家庭科室	1	更衣室	1	機械室	1
〃 準備室		シャワー室	1	ポンプガス置場	1
図書室兼視聴覚室	1	倉庫	2	職員便所	1
音楽室	1	子供銀行室	1	児童便所	5
〃 準備室	1	資料室	1	浄化槽	1基

☆工事費

総工費	131,333,000円
工事費	124,744,000
設計費	2,733,000
管理費	1,050,000
備品購入費	2,000,000
調査費	100,000
ボーリング費	138,000
事務費	568,000
防衛庁補助金	90,200,000

☆建築面積

校舎	2669.402㎡
機械室	68.025㎡

☆工事請負業者

設計者	大名建築設計事務所
工事者	大日本土木株式会社

建設委員会の構成

昭和四十三年度

委員長　足立　匡（市会議員）
副委員長　小沢　珣一（市会議員）
柴田　正三（連合広報会長）
加藤　嘉雄（同窓会長）
中村　甍子（婦人会長）
田中　寿夫（児童委員代表）
足立　千里（元ＰＴＡ会長）
永井　敬一（ＰＴＡ顧問）
丹羽　憲雄（ＰＴＡ会長）
足立　横夫（ＰＴＡ副会長）
岩井　幸満（　〃　）
永井　昌子（　〃　）
堀　亀祥（ＰＴＡ会計）

昭和四十四年度

委員長　足立　匡（市会議員）
副委員長　小沢　珣一（　〃　）
岸　清光（連合広報会長）
加藤　嘉雄（同窓会長）
中村　甍子（婦人会長）
田中　寿夫（児童委員代表）
足立　千里（元ＰＴＡ会長）
永井　敬一（ＰＴＡ顧問）
丹羽　憲雄（ＰＴＡ会長）
松波　久夫（ＰＴＡ会長）
佐々木　保（ＰＴＡ副会長）
丹羽　学（　〃　）
佐々木てる子（　〃　）
五島　博（ＰＴＡ会計）

昭和四十五年度

委員長　足立　匡（市会議員）
副委員長　小沢　珣一（　〃　）
丹羽　栄（連合広報会長）
加藤　嘉雄（同窓会長）
松波　民市（稲羽東農協組合長）
中村　甍子（婦人会長）
田中　寿夫（児童委員代表）

足立　千里　（元ＰＴＡ会長）
永井　敬一　（　〃　）
丹羽　憲雄　（ＰＴＡ顧問）
松波　久夫　（ＰＴＡ会長）
長瀬　海信　（ＰＴＡ副会長）
松波　満雄　（　〃　）
永井　英子　（　〃　）
山本　里水　（ＰＴＡ会計）

昭和四十六年度

委員長　足立　匡　（市会議員）
　　苅谷　利光　（連合広報会長）
　　加藤　嘉雄　（同窓会長）
　　松波　民市　（稲羽東農協組合長）
　　中村　艶子　（婦人会長）
　　田中　寿夫　（児童委員代表）
　　足立　千里　（元ＰＴＡ会長）
　　永井　敬一　（　〃　）
　　丹羽　憲雄　（　〃　）
　　松波　久夫　（ＰＴＡ顧問）
　　山本　里水　（ＰＴＡ会長）
　　田中　俊道　（ＰＴＡ副会長）
　　奥村　金和　（　〃　）
　　古川　文代　（　〃　）
　　長縄　吉衛　（ＰＴＡ会計）

新校舎建築に伴う環境備品の整備

校舎の近代化に伴い、内容の充実をはかり、子弟の教育の近代化をはかろうという校下各位の切なる願いから建設委員会が中核となって、校下一丸となって教育備品の充実を行うことになりました。

趣意書

現下、高度な経済成長とともに世界情勢はめざましい進展を遂げて第二の産業革命期となってきました。このとき、現代の教育はいかにあったらよいだろうかを私達は真剣に考えなければなりません。十年後の私達の生活には現在の倍の知識が必要であるといわれております。従って能力開発ということから「創造的人間」の形成を目ざした教育が必要だと思います。

その昔、明治六年二月前渡村桃春院を以って不悋学校として開校した稲羽東小学校は、今日まで延々九十有余年、文化の中心となり、人づくりの場として続いてきました。今日ここに、時代の趨勢により鉄筋校舎に改築されるに及び、既に第一期工事を終え、第二期工事も着工され、本年度中には竣工の運びと相成ることになりました。このとき本校が尊い歴史の上にたち時代とともにますます「校風の樹立」されることを祈ってやまない次第でございます。

さて、今日物心両面にわたり教育の近代化が唱えられ、その重要性が認識されるにつれ、科学技術の急速な進歩は、教育の分野においてもめざましく、教育機器等の導入によって教育効果を高めようとする傾向が強くなってまいりました。このとき、私たちは積極的にその価値を認め、教育の成果を期待し、児童の学習を容易ならしめて立派な我が子の育成をはかりたいと痛感いたします。そこで、校下全町各位によびかけ、皆様の深いご理解とご協力により尊い浄財を募って、ねがいをかなえたいと思います。

どうか、その意とするところをご理解賜わり、ご協力くださるよう、伏してお願い申しあげます。

昭和四十五年八月

稲羽東小学校建設委員会

委員長　足立　匡
市議会議員　小沢　珣一
市議会議員　丹羽　栄
連合広報会長　加藤　嘉雄
同窓会長　松波　民市
稲羽東農業協同組合長　中村　艶子
婦人会長　田中　寿夫
児童委員代表　足立　千里
元ＰＴＡ会長　永井　敬一
〃　丹羽　憲雄
ＰＴＡ顧問　松波　久夫
ＰＴＡ会長　長瀬　海信
〃　副会長　松波　満雄
〃　永井　英子
ＰＴＡ会計　山本　里水

校下各位

稲羽東小学校環境備品寄付金会計報告

堤防に吹く風もようやくゆるみ、しのぎよい季節となりました。
校下各位におかれてはますますご清栄にてお過しの御事と存じお慶び申し上げます。
さて去る昭和四十五年八月、稲羽東小学校建築に伴い現下の教育情勢から、環境備品の必要性を痛感しその整備についてご協力をおねがいしましたところ、絶大なるご協力を賜わり、市内にない設備を完備することができました。校下各位の学校教育によせられるご理解、郷土愛に対し深く感謝感激いたすところでございます。今後は、近代化された環境の中で、次代の人づくり、真の人間性の開発に心魂を傾け、ご期待に添うよう学校当局、PTA、校下一丸となって子弟教育のために努力する所存でございます。茲に左記決算報告をし、紙上で失礼ですが連名で厚く御礼を申し上げます。

昭和四十七年三月二十五日

稲羽東小学校建設委員会

委員長　足立匡

PTA会長　山本巳水

学校長　横幕信夫

1．収入の部　¥ 3,618,757

内訳　一般　3311,600

特別　270,000

利息　37,157

2．支出の部　¥ 3,618,757

内訳

品名		単価	数量	金額
ピアノ		306,000	1	306,000
オルガン		14,200	20	284,000
カラーテレビ一式		135,000	1	135,000
第一期工事分	ビデオコーダーAV 3700	151,000	1	151,000
	モニターテレビCVH 330	50,400	2	100,800
	子テレビ	40,500	7	283,500
	音声映像分配器	13,500	3	40,500
	録画タイマー	17,900	1	17,900
	ビデオカメラセット	184,700	1	184,700
	ドーリー	6,000	1	6,000
	ポータープルビデオセット	350,000	1	350,000
	ビデオテープV 32	9,000	1	9,000
	ビデオテープV 30 E	3,000	1	3,000
	ビデオテープV 30 H	5,000	1	5,000
	ケーブル	220	200M	44,000
	配線工事費			75,000
ビデオテープ 30 H		5,000	5	25,000
整備状況中間報告印刷代				2,200
落成式児童祝品				22,500
落成式パンフレット代				6,800
落成式来賓招待費				16,980
理科室実験用流し		19,000	1	19,000
宿直室ガス整備代				12,940
キーボックス		25,000	1	25,000
校門工事費				250,000
校門名板				40,000

品名		単価	数量	金額
第二期工事分	子テレビ	40,500	7	283,500
	ケーブル	220	200M	44,000
	工事代			75,000
	ビデオテープV 30	3,000	25	75,000
	ビデオテープV 31	5,000	3	15,000
	ビデオテープV 32	9,000	2	18,000
	ビデオテープV 30 H	5,000	15	75,000
	空リールSE	550	1	550
	空リール72V	600	1	600
	ベビースポット	7,500	2	15,000
	ベビースイッチ			3,000
	マイク			4,500
	延長コード10A	1,000	2	2,000
	延長コード5A	650	1	650
	カメラ延長コードF 5	1,500	1	1,500
	放送室カーペット			28,000
	ヘッドホン	3,000	3	9,000
	ファイル棚	18,000	2	36,000
	テープラック	1,200	4	4,800
	スタジオ用テーブル	8,000	1	8,000
	スタジオ用イス	5,000	4	20,000
	ズームレンズ	3,500	1	3,500
	アンテナ取付			6,500
	ヘッドホン増幅器			3,000
	スタジオ用モニター改造			1,500
	放送室表示板			4,000
	輪転印刷機及ファックス	253,000		253,000
	小切手手数料	100		100
小鳥小屋		190,000		190,000
小鳥内部設備		19.237		19,237
決算報告印刷代		3,000		3,000

3．残金　¥ 0

第三編

卒業生名簿

昭和四十七年三月末調

明治３５年３月尋常科４年卒業生

明治４４年３月尋常科高等科卒業生

大正３年３月尋常科高等科卒業生

大正４年３月尋常科高等科卒業生

明治４５年３月尋常科高等科卒業生

大正２年３月尋常科高等科卒業生

大正七年三月尋常科卒業生

大正八学年度尋常科卒業生

大正九学年度尋常科卒業生

大正5年3月尋常科高等科卒業生

大正6年3月尋常科卒業生

大正十三学年度尋常科卒業生

大正十四学年度尋常科卒業生

昭和元年度尋常科卒業生

大正十学年度尋常科卒業生

大正十一学年度尋常科卒業生

大正十二学年度尋常科高等科卒業生

昭和五年度尋常科卒業生

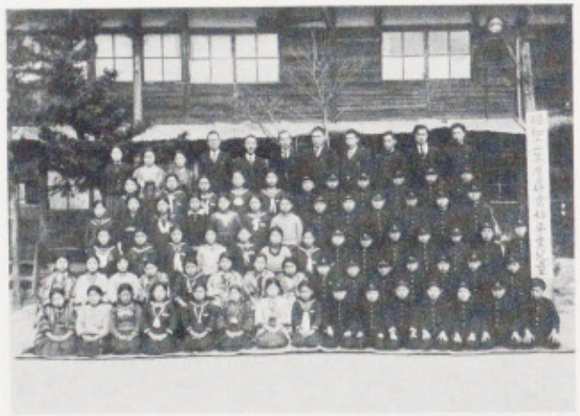
昭和六学年度尋常科卒業生

昭和七年度尋常科卒業生

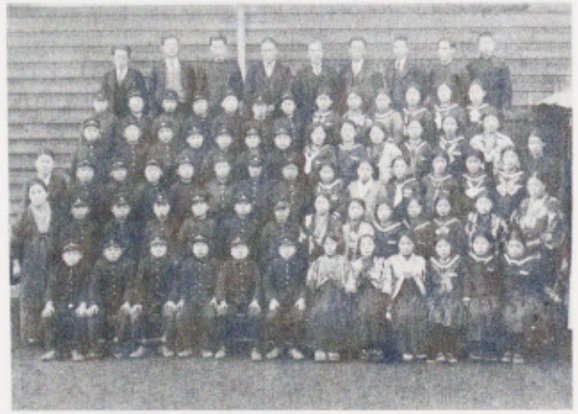
昭和二学年度尋常科卒業生

昭和三学年度尋常科卒業生

昭和四年度尋常科卒業生



昭和十一年度尋常科卒業生



昭和十二年度尋常科卒業生

昭和十三年度尋常科卒業生

昭和八年度尋常科卒業生

昭和九学年度尋常科卒業生

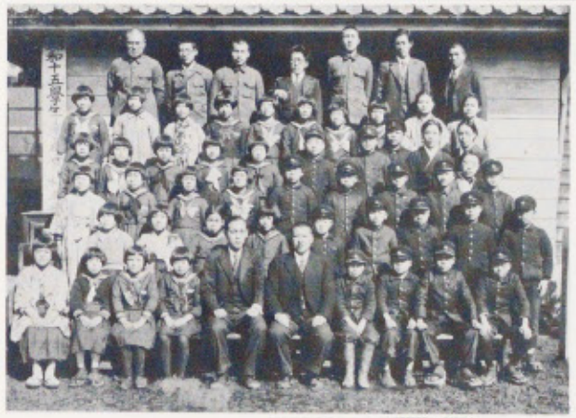
昭和十年度尋常科卒業生

昭和十六年度国民学校初等科卒業生女子部

昭和十七年度初等科卒業生男子部

昭和十七年度初等科卒業生女子部

昭和十四学年度尋常科卒業生



昭和十五学年度尋常科卒業生

昭和十六年度国民学校初等科卒業生男子部

昭和十九年度卒業生女子部

昭和二十年度卒業生男子部

昭和二十年度卒業生女子部

昭和十八年度卒業生男子部

昭和十八年度卒業生女子部

昭和十九年度卒業生男子部

昭和二十二年度卒業生二組

昭和二十三年度卒業生一組

昭和二十三年度卒業生二組

昭和二十一年度卒業生一組

昭和二十一年度卒業生二組

昭和二十二年度卒業生一組

昭和二十四年度卒業生一組

昭和二十四年度卒業生二組

昭和二十五年度卒業生一組

昭和二十五年度卒業生二組

昭和二十六年度卒業生一組

昭和二十六年度卒業生二組

昭和二十七年度卒業生一組

昭和二十七年度卒業生二組

昭和二十八年度卒業生一組

昭和二十八年度卒業生二組

昭和二十九年度卒業生一組

昭和二十九年度卒業生二組

昭和三十一年度卒業生二組

昭和三十二年度卒業生

昭和三十三年度卒業生一組

昭和三十年度卒業生一組

昭和三十年度卒業生二組

昭和三十一年度卒業生一組

昭和三十五年度卒業生一組

昭和三十五年度卒業生二組

昭和三十六年度卒業生一組

昭和三十三年度卒業生二組

昭和三十四年度卒業生一組

昭和三十四年度卒業生二組

昭和三十八年度卒業生一組

昭和三十八年度卒業生二組

昭和三十九年度卒業生一組

昭和三十六年度卒業生二組

昭和三十七年度卒業生一組

昭和三十七年度卒業生二組

昭和四十一年度卒業生一組

昭和四十一年度卒業生二組

昭和四十二年度卒業生一組

昭和三十九年度卒業生二組

昭和四十年度卒業生一組

昭和四十年度卒業生二組

昭和四十四年度卒業生一組

昭和四十四年度卒業生二組

昭和四十五年度卒業生一組

昭和四十二年度卒業生二組

昭和四十三年度卒業生一組

昭和四十三年度卒業生二組

卒業名簿の調製について

事務局

明治三十六年三月卒業生（明治三十五年度卒業）から四十一年三月卒業生まで
尋常小学校四年制度。
最高年齢八十四・五才で各年次とも生存者数名。
小学校保存帳簿により氏名のみを写しました。

明治四十三年三月卒業生から六年制度。
各学年に在村者から一名宛の調査世話人を選び現況を調査してもらいました。
世話人のご苦労に深甚の敬意を表します。

昭和四十一年三月卒業生以降。
まだ変化も少なく、学生が多いので卒業生名簿から氏名のみを写しました。

昭和四十五年度卒業生二組

昭和四十六年度卒業生一組

昭和四十六年度卒業生二組

卒業生名簿集計表

番通	卒業年月	人数	調査世話人
尋常科四年制度			
1	明治二六年三月	三〇	
2	明三七、三	四三	
3	明三八、三	五〇	事務局
4	明三九、三	四四	（加藤）調
5	明四〇、三	五四	
6	明四一、三	三五	
小学校六年制度			
7	明四三、三	五〇	武山　秀雄
8	明四四、三	三五	仙石　茂
9	明四五、三	五八	日比野吉一
10	大正二年三月	四〇	古川　守一
11	大三、三	五三	加藤　嘉雄
12	大四、三	五〇	小島　喜市
13	大五、三	三四	日比野静夫
14	大六、三	三八	丹羽　友衛
15	大七、三	四九	加藤　善実
16	大八、三	三九	倉知　芳逸
17	大九、三	五三	松波　民市
18	大一〇、三	四四	松波　裕
19	大一一、三	三九	仙石　梅夫
20	大一二、三	五九	松波　治一
21	大一三、三	六五	田中　朝信
22	大一四、三	五六	永井　弘道
23	大一五、三	五九	足立　恭一
24	昭和二年三月	六七	丹羽　肇
25	昭三、三	七〇	磯谷伊四雄
26	昭四、三	六〇	松波　久夫
27	昭五、三	六四	田中　理一
7～23計		八一一	1～23計　一、〇六七

番通	卒業年月	人数	調査世話人
28	昭六、三	六一	足立　槇夫
29	昭七、三	七二	足立　千里
30	昭八、三	六五	丹羽　一二
31	昭九、三	八七	永井　武男
32	昭一〇、三	五一	松波　新治
33	昭一一、三	七九	尾関　正夫
34	昭一二、三	六八	大沢　光子
35	昭一三、三	六四	足立　久夫
36	昭一四、三	四二	村瀬　文雄
37	昭一五、三	七〇	長瀬　海信
38	昭一六、三	四三	足立　充司
39	昭一七、三	七〇	丹羽　学
40	昭一八、三	六七	五島　博
41	昭一九、三	七八	田中　俊道
42	昭二〇、三	七一	堀　六十四
43	昭二一、三	七〇	加藤　勝彦
44	昭二二、三	五九	加藤　善彦
45	昭二三、三	七八	富樫　心行
46	昭二四、三	六六	中村　雅美
47	昭二五、三	六九	奥村　喜宏
48	昭二六、三	六五	足立　千明
49	昭二七、三	七〇	田中　良治
50	昭二八、三	六四	長瀬　隆
51	昭二九、三	七九	田中　登
52	昭三〇、三	六八	丹羽　達二
53	昭三一、三	八〇	水島　正道
54	昭三二、三	六九	村上　喜広
55	昭三三、三	四六	足立　一博
56	昭三四、三	六九	足立　宣義
57	昭三五、三	一〇二	田中　祥照
58	昭三六、三	八八	大橋　広保
59	昭三七、三	八九	足立　敏治
60	昭三八、三	八二	田中　義明
61	昭三九、三	七三	永井　博幸
62	昭四〇、三	六七	足立　良宏
24～45計		一、四五七	1～45計二、五二四
46	昭二四、三	六六	中村　雅美
47	昭二五、三	六九	奥村　喜宏
48	昭二六、三	六五	足立　千明
49	昭二七、三	七〇	田中　良治
50	昭二八、三	六四	長瀬　隆
51	昭二九、三	七九	田中　登
52	昭三〇、三	六八	丹羽　達二
53	昭三一、三	八〇	水島　正道
54	昭三二、三	六九	村上　喜広
55	昭三三、三	四六	足立　一博
56	昭三四、三	六九	足立　宣義
57	昭三五、三	一〇二	田中　祥照
58	昭三六、三	八八	大橋　広保
59	昭三七、三	八九	足立　敏治
60	昭三八、三	八二	田中　義明
61	昭三九、三	七三	永井　博幸
62	昭四〇、三	六七	足立　良宏
63	昭四一、三	六六	足立　茂宗
64	昭四二、三	六四	田中　秀明
65	昭四三、三	六五	田中　清夫
66	昭四四、三	六八	足立　一志
67	昭四五、三	六四	丹羽　貞之
68	昭四六、三	七〇	松波　宏明
69	昭四七、三	七一	足立　正治
70	昭四八、三	七二	永井　富一
71	昭四九、三	七〇	日比野治三郎
72	昭五〇、三	七一	丹羽　憲雄
73	昭五一、三	七〇	丹羽　浅七
74	昭五二、三	七一	長縄　勝成
75	昭五三、三	七〇	田中　新吾
76	昭五四、三	七一	足立　与
77	昭五五、三	七〇	仙石　茂木
78	昭五六、三	七一	岩井　幸満
79	昭五七、三	七〇	安藤　信夫
80	昭五八、三	七一	高崎　敏臣
81	昭五九、三	七一	丹羽　保一
82	昭六〇、三	七一	永井　嘉之
83	昭六一、三	七〇	足立　章広
84	昭六二、三	七〇	足立　良一
85	昭六三、三	七〇	足立　二三男
86	昭六四、三	七〇	足立　高年
87	昭六五、三	七〇	水島　正之
88	昭六六、三	七〇	足立　博明
89	昭六七、三	七〇	長縄　幹彦
90	昭六八、三	七〇	小野木三紘
91	昭六九、三	七〇	千伝　幸弘
92	昭七〇、三	七〇	仙石　明正
93	昭七一、三	七〇	松波　宏明
94	昭七二、三	七〇	丹羽　貞之
95	昭七三、三	七〇	田中　清夫
96	昭七四、三	七〇	足立　一志
97	昭七五、三	七〇	田中　良治
98	昭七六、三	七〇	足立　千明
99	昭七七、三	七〇	奥村　喜宏
100	昭七八、三	七〇	中村　雅美
24～100計		一、四五七	1～100計二、五二四

番通	卒業年月	人数	調査世話人
63	昭四一、三	五〇	
64	昭四二、三	五七	
65	昭四三、三	五七	
66	昭四四、三	五一	事務局(加藤)調
67	昭四五、三	五三	
68	昭四六、三	五三	
69	昭四七、三	五六	
	46～69 計一、六二三		
	1～69 計四、一四七		

明治三十六年三月尋常科四年卒業生

五島曽我治　永井寿江一　小島　信次　河田　常木
足立　重吉　丹羽　重蔵　永井　利二　村上忠左エ門
丹羽宇之助　長瀬　元夫　五島　進　田中　久一
丹羽　いえ　田中まさゑ　足立　章　磯谷　馨
永井かな枝　長瀬志寿ゑ　丹羽よしゑ　田中志ゆう
田中　すわ　永井　ふく　長縄　林一　永井外次郎
仙石金右エ門　丹羽丑之助　足立　仙吉　松波　信二
丹羽　正一　丹羽　金吾

明治三十七年三月尋常科四年卒業生

岩井　新作　永井　善己　永井　正作　佐々木鍬治
丹羽辛之丞　永井菊次郎　長縄　俊市　五島　理一
松波　由丸　足立　尚　長縄　兵一　安藤　亦一
丹羽　源市　荊谷　興市　田中利エ三郎　大橋　寅吉
丹羽　久克　永井　定吉　小野木ふじ　永井　はな
五島志ずゑ　松波きぬゑ　丹羽　きん　足立　すわ
小島　ふ志　村上　さみ　足立　こう　永井まさの
長瀬すみ江　丹羽はるゑ　永井てつゑ　丹羽はるよ
足立　よ弥　仙石　かま　仙石まさ乃　岩井なみ江
岩井　みか　足立たき乃　足立　はる　丹羽　きみ
岩井　喜助　足立　せつ　荊谷　ミイ

明治三十八年三月尋常科四年卒業生

松波　市平　川瀬　新平　小沢　寿平　五島　幸一
足立　肇　小林鉄次郎　丹羽　勝　永井久三郎
長瀬　省三　長縄　源市　足立　良夫　丹羽　藤衛
丹羽　静一　永井　光正　田中　一衛　堀　忠一
日比野藤吉　加藤　善一　磯谷　重夫　長瀬　義夫
荊谷　源松　丹羽喜平治　富樫　一二　仙石　東吾
村上　忠義　足立　藤一　大橋　光恵　丹羽ゆ紀の
五島　静女　丹羽　叶　小野木なつ　足立　ひな
長縄　げん　仙石　志げ　丹羽まさ乃　足立　そと
丹羽まさよ　佐々木よね　武山ふじ江　仙石まさの
永井　志げ　富樫きぬゑ　荊谷はずゑ　佐々木ふじゑ
足立　みゑ　松波　しぎ　磯谷　ぎん　後藤　なつ
後藤　しげ　村上あきの

明治三十九年三月尋常科四年卒業生

丹羽	操	仙石	静	足立 四郎
佐々木儀一		足立	柳吉	松波万亀夫
永井	計二	永井	亀松	丹羽 恭三
永井	定市	小野木久治郎		田中 義一
西尾	達男	長縄倉之助		酒井 一政
村上	式	丹羽寿美ゑ		小室 ひさ
大橋	はな	後藤	みね	丹羽 かな
足立	志ま	丹羽	いき	足立す見ゑ
田中	やす	岩井やすの		安藤 なか
松波かずゑ		丹羽はるへ		丹羽たつよ
小島	すぎ	田中	みつ	日比野まき

後藤清治郎
田中 覚一
丹羽 巌
菊谷 正作
永井 雪ゑ
小沢 さわ
永井 ゆか
松波 ちゑ
岩井ウメノ
小島かづゑ
西尾知かゑ

明治四十年三月尋常科四年卒業生

永井	留吉	小川	浅一	丹羽 英雄
足立	文司	五島	藤一	堀伝右エ門
丹羽	助一	足立	専一	足立 喜一
丹羽	三郎	岸	惣吉	長瀬繁三郎

五島 馨
田中儀三郎
丹羽金次郎
永井 亀寿

永井	良一	磯谷	重義	仙石 茂一
日比野角三郎		仙石	藤夫	安藤 信次
菊谷	清一	小島	又一	足立 利作
村上	ゆき	菊谷	すわ	磯谷 紺恵
仙石	らく	千伝	ひな	永井 つぎ
丹羽かなよ		丹羽あさを		富樫きく江
田中よしゑ		田中	せい	永井 たま
武山すず江		松波	はる	松波 こう
小野木てい		小野木雪を		小野木亨津能
田中	よう	丹羽さかゑ		

村上 郁郎
安藤 鎌一
小島 清助
小島かねよ
丹羽 由乃
田中 はま
田中 寿う
長縄 紀見
菊谷 美己

明治四十一年三月尋常科四年卒業生

丹羽一重郎		佐々木秀一		浅井 宗重
堀	栄一	松波	哲二	大橋 一重
小島	貞一	五島	慈郎	松波 常一
仙石	義夫	梶田	正隆	坂野 はな
足立	とく	丹羽きぬゑ		永井みつゑ
河田まつよ		丹羽	まち	長瀬やゑの
丹羽スギエ		岩井	き志	足立 昌子

松波 政一
村上 忠治
若井 郁郎
長縄ふみよ
長縄 なを
丹羽ふみゑ
永井 はま

明治四十三年三月尋常科六年卒業生

氏名	旧姓又は旧氏名	現住所	職業その他生存状況
小島 信光			死亡
佐々木 きぬよ			死亡
仙石 義夫			死亡
磯谷 正克			死亡
日比野 金一			死亡
日比野 たかゑ			死亡
小島 たま			死亡
足立 慶市			死亡
松波 市之丞			死亡
武山 秀雄		各務原市前渡西町	常貞寺
堀 市左エ門			死亡
長瀬 信夫		市内前渡西町	農業
富堅 団之丞			死亡
富堅 信一			死亡
田中 松太郎		市内前渡西町	農業
小野木 千恵子			死亡
小野木 みとの			死亡
足立 みな			死亡
松波 だい			死亡

氏名	旧姓又は旧氏名	現住所	職業その他生存状況
五島 かしく		市内那加前洞町	農業
岸 たけ			死亡
丹羽一郎		市内前渡東町	農業
丹羽金次		京都市中京区三条大宮東入	
丹羽 清			死亡
丹羽宗五郎			
丹羽市十郎		名古屋市中区正木町二	死亡
丹羽すずゑ			死亡
丹羽すえの		愛知県江南市草井小杁田島和夫方	
丹羽まち			死亡
丹羽すぎゑ			死亡
永井 茂			死亡
日比野 てつゑ		江南市前飛保須賀健一方	
永井主計		市内鵜沼各務野町	市会議員
永井常夫		名古屋市瑞穂区宝田町一ノ六	
永井喜江		名古屋市中区栄町五ノ七ノ二六	
永井こう			死亡
永井 操		名古屋市中区千代田町一ノ二ノ二七	
永井すゞの			死亡
永井はま		市内鵜沼	
永井さわ		犬山市練屋町岡部益蔵方	

明治四十四年三月尋常科卒業生

氏名	旧姓又は旧氏名	現住所	職業その他生存状況
五島政一		岐阜市城東通二ノ六	
五島精治		各務原市前渡西町六	
足立良一		各務原市前渡西町一	
丹羽巌		各務原市前渡東町	
丹羽静夫		各務原市前渡東町	
永井米吉		各務原市那加町	
仙石茂		各務原市下切町	
足立くに		各務原市前渡西町	
間宮いちゑ	田中	各務原市小佐野町	足立春方
天野とし志ゑ	田中	名古屋市千種区池下	間宮美一方
横山ゆきゑ	田中	各務原市成清町	天野弘司方
尾関イサヲ	足立	各務原市前渡西町	
尾関ぎん	丹羽	江南市宮田町	尾関正夫方
永井つるゑ		各務原市前渡東町	尾関浅重方
丹羽とき己		名古屋市港区宝神町一丁目	永井啓一方
片岡志げ	田中	敷一一一〇	丹羽西屋三方
馬場ますゑ	田中	各務原市新那加町	片岡勝方
伊藤君江	仙石	江南市草井町	馬場延三郎方
		各務原市鵜沼町	伊藤影一方
丹羽まつゑ		各務原市那加町	伊藤甚三郎方
佐々木		各務原市料理旅館	久本方
仙石光枝		各務原市下切町	仙石義克方
伊藤よし枝	佐々木	岐阜市加納朝日町二丁目	伊藤甚三郎方
五島芸			
足立克海			
田中良市			
永井定光			
丹羽勘一			
丹羽澄一			
丹羽元且			
磯谷勝衛			
日比野英二			
仙石米一			
日比野定一			
佐々木秀夫			
長縄源八			
丹羽啓一			
丹羽正男			
田中はき江			
丹羽静子			
長瀬よしゑ			

氏名	旧姓又は旧氏名	現住所	職業その他生存状況
田中志ず			
長縄まあ			
五島さかゑ			
五島ゆき江			
岩井をくこ			
苅谷と利			
丹羽さだ			
丹羽福枝			
村上政よ			
小島満津			
五島波			
松波さだ			
丹羽俊一			
河田源十郎			
新田芳枝			

明治四十五年三月卒業生

氏名	旧姓又は旧氏名	現住所	職業その他生存状況
仙石敏夫			
仙石藤四郎		不明	
磯谷兼市		市内前渡東町	
村上成城		市内前渡東町	
日比野義一	〃		
小沢三鶴		前渡東町	
大橋芳一		犬山	
丹羽源之丞			
丹羽義治			
丹羽賢一			
松波亮		不明	
小野木紋一			
日比野吉一		前渡東町	
小沢千代松			
永井由造		前渡東町	
伊藤文一		不明	
堀と志ゑ		不明	
丹羽栄		不明	
安藤きさを		不明	